

安心・ 成長・ 自立自尊 の 埼玉へ

埼玉県5か年計画
2012▶2016



地 域 別 版

SAITAMA





Index

地域区分の考え方	2
南部地域	4
南西部地域	10
東部地域	16
さいたま地域	22
県央地域	28
川越比企地域	34
西部地域	40
利根地域	46
北部地域	52
秩父地域	58
今後の地域づくりについて	64



このたび、「埼玉県5か年計画」の地域別版を策定いたしました。

埼玉県には人口の密集する大都市や郊外に点在する中小の都市もあれば、過疎などの課題に取り組む中山間地域もあります。

まちの姿が多彩であるがゆえ、地域が抱える課題も様々です。そのような課題に対し、地域が自ら創意工夫し、成功モデルを積み上げることで地域の自主性・自立性が向上していきます。

私は、各地域の個性や活力を生かした取組をしっかりと支え、それぞれの地域がさらに魅力ある地域となるよう全力を尽くしてまいります。

県民の皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年9月

埼玉県知事 上田清司

5か年計画地域別版は、埼玉県5か年計画（平成24年度～平成28年度）に位置付けられた取組を地域別に整理するものです。

地域別版では、前計画（ゆとりとチャンスの埼玉プラン）で定めた県内10の地域ごとに、現状や課題を踏まえ、特性や資源を生かした「地域づくりの方向性」や実施する「主な取組」を示します。

地域区分の考え方

これからの人口減少・超高齢社会においては、それぞれの地域が産業、人材、自然、文化、歴史などの様々な資源や特性を生かし、創意工夫を加えながら個性豊かで活力にあふれた地域づくりに取り組んでいくことが求められています。

このため、地域区分の設定に当たっては、地域特性の共通性や日常生活圏の一体性などに配慮することが重要になります。こうした点を踏まえ、次の考え方に基づいて、10の地域区分を用いることとします。

本県では、東京都心からの距離ごとに地域の課題が変化する傾向が見受けられます。このため、まず、東京都心からの距離に基づき、大きく3つのゾーンに区分しました。

さらに、地域づくりを進める単位として、次の観点から地域を区分しました。

- (1) 地域の魅力や強みを生かした個性的なまちづくりを進めていくためには、生活圏としての一体感が形成されていることが大切です。このため、保健・医療や日常の買物行動など生活圏としての一体性がある市町村を同じ地域に区分しました。
- (2) 地域のまとまりに影響を与える鉄道や道路などの交通軸に配慮した地域区分としました。
- (3) 政令指定都市を独立した一つの地域として区分しました。



県南ゾーン (東京都心から概ね10~30km圏)
東京の影響を受けやすく、早くから都市化が進行した地域

圏央道ゾーン (東京都心から概ね30~60km圏)
都市と田園が共存しており、今後圏央道の整備により一層の発展が期待されている地域

県北ゾーン (東京都心から概ね60km以遠)
潤いのある豊かな自然環境や歴史・伝統などの地域資源を生かした地域活力の向上が期待されている地域





南部地域



川口市
蕨市
戸田市

人口(県人口に占める割合)	756,087人(10.5%)
面積(県面積に占める割合)	85.24km ² (2.2%)
人口密度	8,870.1人/km ²

国勢調査(平成22年)(総務省)

川口市・蕨市・戸田市



彩湖・道満グリーンパーク(戸田市)

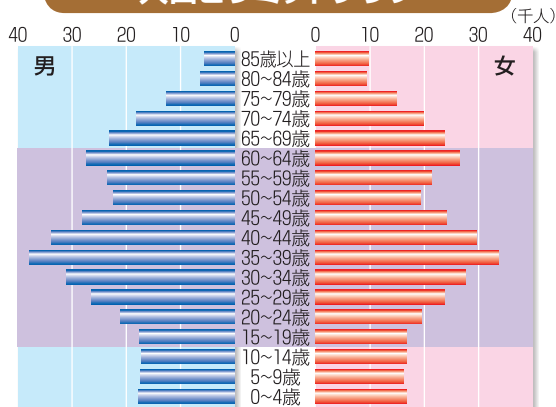
位置・地勢

- 荒川を挟んで東京都と接する県の南端、東京都心から10~20km圏に位置している。
- 地域の大半は荒川低地である。中央部を芝川が南北に流れ、北部には安行台地が広がっている。

地域のなりたち

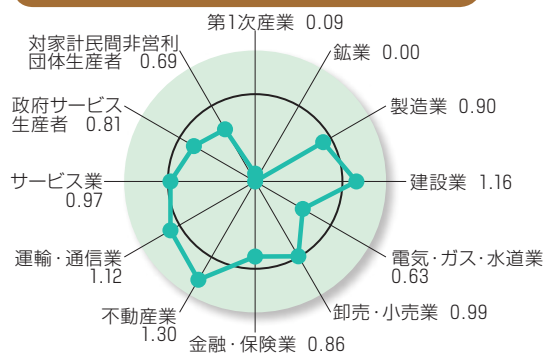
- 江戸時代には、川口は日光御成街道の宿場町、蕨は中山道の宿場町であり、近郊農村の物資が集積し、多くの人が行きかうまちとして栄えた。
- 荒川に面する戸田は「戸田の渡し」と「河岸場」が設けられ、交通の要衝として発展した。
- 荒川や芝川から鑄物に適した良質の砂や粘土が採れたため、川口では鍋・釜などの日用品を中心とした鑄物産業が盛んになった。また、川口の安行は明暦の大火後に江戸に草花や植木を供給し、植木の産地として有名になった。
- 明治以降、工業の急速な発達に伴い、金属・機械分野などの中小事業所の立地が進んだ。
- 高度経済成長期には人口が急増し、住工混在の密集市街地が形成された。近年は特に駅周辺地域において、工場からマンションへの土地利用の転換が顕著である。

人口ピラミッドグラフ



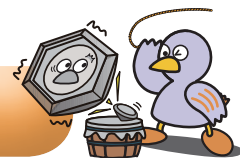
国勢調査(平成22年)(総務省)

産業別特化係数(全市町村平均比率=1)



埼玉の市町村民経済計算(平成21年度)(埼玉県)

地域の産業構造が県全体の平均に対してどのような特徴があるかを表す。
(1より大きい産業ほど特化している。)



地域の現状と課題

南部地域は、先端技術を有する鋳物産業や機械産業などが集積しており、国内外のものづくりにおいて重要な役割を担っています。

東京に隣接し、昭和60年（1985年）のJR埼京線、平成13年（2001年）の埼玉高速鉄道線や東京外環自動車道、首都高速埼玉大宮線の開通などにより、交通利便性がさらに高まり、本県の南の玄関口として人口増加が続いています。

平成15年（2003年）には、川口にSKIPシティがオープンし、中小企業の振興と映像関連産業を核とした次世代産業を育成する拠点づくりが進められています。また、平成23年（2011年）には子育ての支援や児童虐待の防止に向けた取組を推進するため、川口に南児童相談所が開設されました。

今後は、東日本大震災を教訓とした災害に強いまちづくりを進めるとともに、密集市街地を改善するほか、浸水被害の軽減や、水辺再生事業のこれまでの成果を生かし、きれいな川を取り戻し潤いのある水辺空間の整備を進めていく必要があります。また、新たな市街地整備が進む中、歴史的景観や首都圏の貴重な緑を活用した観光や埼玉高速鉄道駅周辺における快適で美しいまちなみの形成に向けた取組が必要となっています。

さらに、多様なものづくりの企業が集中して立地し、高度な技術、技能を持つ人材にも恵まれている地域特性を生かし、中小企業の振興とともに技術、技能の継承と発展を図ることが求められています。

この地域では住民の平均年齢は比較的若いものの、少子高齢化が進み核家族世帯や高齢者、単身世帯が多くなっています。こうした中、地域とのつながりが薄い都市型高齢者をはじめ急速に増加する高齢者が安心してすごせる環境の整備や、安心して子どもを産み育てられる子育て環境の一層の充実が求められています。また、住み慣れた地域において、必要な時に安心して医療を受けられる体制づくりが求められています。



SKIPシティ国際Dシネマ映画祭(川口市)

地域づくりの方向性

安心・安全で快適な地域づくりに向けて、交通渋滞のない円滑で安全な自動車交通を実現する交差点改良を実施します。また、歩道の整備や自転車通行帯の設置を進めます。さらに、埼玉高速鉄道沿線において、周辺道路を整備するとともに環境や景観に配慮したまちづくりを進めます。

防災・治水対策をさらに進めるとともに、自主防災組織やNPO、ボランティアなどとの連携・協働を図ります。また、帰宅困難者や災害時要援護者への対策を進めます。

水と緑を生かした魅力と潤いのある生活を実現するため、荒川河川敷の彩湖・道満グリーンパークなどの広大な緑地を活用し、人々が交流できる憩いの場を備えた都市空間を形成するとともに、県民、NPO、事業者などとの連携による河川浄化や水辺空間の保全・活用を引き続き進めます。また、家庭や企業などにおける再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化を進めます。

SKIPシティを中心に、企業の技術力向上や次世代のものづくりを担う人材育成などを通じた中小企業の支援や、映像産業など成長力のある次世代産業の育成を進めます。

また、都市型農業の特性を生かして、地産地消の推進や新たな緑化産業の育成を支援し、収益性の高い農業を振興します。

一方、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療、介護、予防、住まい、生活支援などの在宅サービスを切れ目なく提供できる体制を整備するとともに、安心して施設サービスが受けられるように特別養護老人ホームなどの整備を支援します。

待機児童解消に向けた保育所の整備を促進するとともに、多様なニーズに応じたきめ細かい保育サービスの提供を支援するなど子育てしやすい環境づくりを進めます。

また、地域の特性を生かした生活習慣病予防対策を推進することにより、健康を保持し、生涯にわたる生活の質の維持・向上を図ります。さらに、必要な時に安心して医療が受けられるように、地域の中核的な医療機関の整備を支援します。

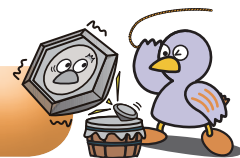
こうした取組を通じて、新たな産業技術と伝統の技が息づく、水と緑と調和した、暮らしに安らぎと潤いのあるまちづくりを進めていきます。



中仙道蕨宿場まつり



川口緑化センター樹里安



主な取組

I 安心・安全を広げる分野

1 安心して子育てできる環境をつくる

- 保育所、企業内保育所などの整備促進による待機児童対策の推進
- 児童相談所などの相談体制の充実

2 高齢者が安心してすごせる社会をつくる

- 24時間在宅生活を支える介護サービスの普及
- 特別養護老人ホームなどの整備支援

3 誰もが健康に暮らせる社会をつくる

- 地域の実情に応じた健康づくりの取組支援など健康長寿埼玉の推進
- NICU（新生児集中治療室）の整備など周産期医療体制の強化

4 暮らしの安心・安全を確保する

- 自主防犯活動への支援
- 歩道の整備、自転車通行帯の設置、右折レーンの設置など交差点の改良
- 生活科学センターを活用した学習支援や情報提供

5 危機・災害に備える

- 消防の広域化の推進、消防救急無線の広域化・共同化の促進
- 自主防災組織の強化や地域における防災関係機関の連携強化
- 主要交差点における発電装置付き信号機の設置推進
- 防災拠点となる公共施設の耐震化の促進
- 河川改修や調節池の整備（毛長川など）

II 人づくり・教育を高める分野

1 子どもを鍛え次代を担う人材を育成する

- 知・徳・体の基礎を確実に身に付けさせる「教育に関する3つの達成目標」の推進
- 小・中学校9年間を一貫した教育の推進、次世代のリーダーとして社会で活躍できる力を育むプログラムの実施などによる確かな学力と自立する力の育成
- 「埼玉の子ども70万人体験活動」や道德教育の推進などによる豊かな心の育成
- 学校体育の充実などによる健やかな体の育成

2 誰もが力を発揮いきいきと活躍する

- 子育て期における多様な働き方の定着促進など女性のチャレンジ支援
- 障害者の自立・生活・就労支援

Ⅲ 経済・産業を支える分野

1 埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 経営革新にチャレンジする企業の支援
- SKIPシティを活用した映像関連産業の振興
- 産業技術総合センターによる研究開発や技術支援

2 埼玉の成長を生み出す農林業を振興する

- 花・植木などの緑化産業の育成支援

3 埼玉の成長を支える社会基盤をつくる

- 幹線道路の未接続区間の解消
- 駅前の顔やにぎわいのあるまちをつくる地域の実情に応じた市街地開発事業の促進



埼玉高速鉄道戸塚安行駅(川口市)

Ⅳ 環境を守り育てる分野

1 みどりと川を再生し自然と共存する

- 身近な緑の保全・創出・活用
- 見沼田圃^{たんぼ}における適切な土地利用の指導、緑地や農地の保全・活用
- 県民と取り組む川の再生の推進(笹目川など)
- 下水道、合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備促進
- 下水道高度処理の推進(荒川水循環センター)

2 エネルギー利用を見直し地球温暖化を防ぐ

- 太陽光発電など再生可能エネルギーやLED照明など省エネ設備の普及・拡大

3 環境負荷の少ない循環型社会を創造する

- 下水処理場における下水汚泥の資源化の推進(荒川水循環センター)

Ⅴ 暮らしと地域を豊かにする分野

1 埼玉の魅力を創造し発信する

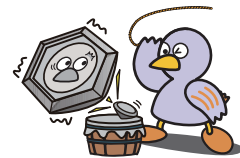
- 伝統芸能などの鑑賞・発表機会の充実
- 誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の提供
- グルメ・歴史・産業などの地域資源を活用した多彩な体験型観光づくり

2 快適で暮らしやすく魅力あふれるまちをつくる

- まちの価値を高める土地区画整理事業や市街地再開発事業の実施

3 一人一人が心豊かに暮らせる地域社会をつくる

- 地域支え合いの仕組みの普及・拡大
- 国際Dシネマ映画祭など国際的なイベントの充実

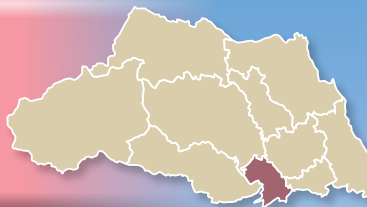


芝川(川の再生)(川口市)

主な施設・交通網と基盤整備の状況



南西部地域



朝霞市
志木市
和光市
新座市

富士見市
ふじみ野市
三芳町

人口(県人口に占める割合)	689,961人(9.6%)
面積(県面積に占める割合)	110.95km ² (2.9%)
人口密度	6,218.7人/km ²

国勢調査(平成22年)(総務省)

朝霞市・志木市・和光市・新座市・富士見市・ふじみ野市・三芳町



さんどめ
三富新田

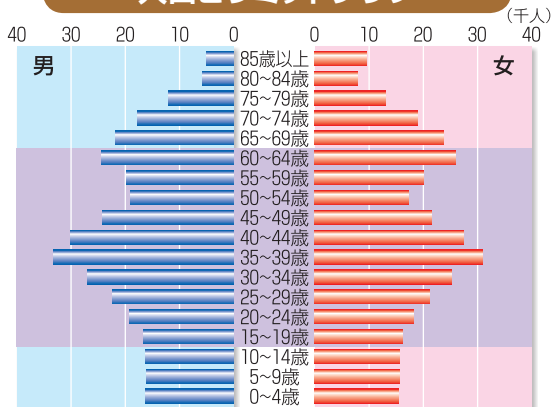
位置・地勢

- 東京都心から20~30km圏に位置し、東京都と隣接している。
- 地域の大半が武蔵野台地などの台地の上にあり、東側の荒川沿いには低地が広がっている。荒川、新河岸川、柳瀬川、黒目川など多くの河川が流れている。

地域のなりたち

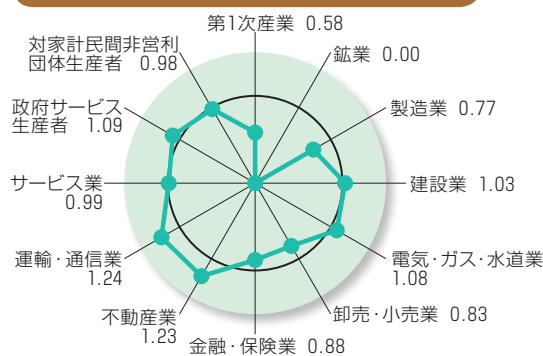
- 古墳時代から奈良時代にかけて渡来人が移住したといわれ、これにちなむ地名も多い。
- 野火止台地は関東ローム層で覆われ、地下水脈が深かったため、かつては水の確保が困難であったが、江戸時代に野火止用水が開削されてからは新田開発が進展した。
- 和光、朝霞、新座、ふじみ野は川越街道の宿場町として、志木、富士見、ふじみ野は新河岸川の舟運により発展した。
- 大正以降、鉄道の開通とともに、駅を中心として新たな市街地の形成が進み、東京に近接する利便性の高さから、軍関係施設や軍需関連産業の集積も進んだ。戦後は軍関係施設が米軍に接収された。
- 高度経済成長期には、大規模な住宅団地や宅地化が進行し、人口が急増した。
- 理化学研究所や大手自動車メーカーなどの研究開発機関や、国の機関が立地している。

人口ピラミッドグラフ



国勢調査(平成22年)(総務省)

産業別特化係数(全市町村平均比率=1)



埼玉の市町村民経済計算(平成21年度)(埼玉県)

地域の産業構造が県全体の平均に対してどのような特徴があるかを表す。
(1より大きい産業ほど特化している。)



地域の現状と課題

南西部地域は、都心に隣接するとともに、東京外環自動車道や関越自動車道により他地域へのアクセスに恵まれています。

平成24年度（2012年度）には東武東上線が東京地下鉄副都心線を経て東急東横線との相互直通運転を開始する予定であり、横浜方面への利便性も高まります。

今後は、この交通利便性に加え、理化学研究所などの高度な研究開発機関が多く立地する環境を生かして、次世代産業の創出や産業競争力の強化を図り、産業を集積し、その効果を県全体に波及させていくことが期待されています。

東日本大震災を教訓とした災害に強いまちづくりを進めるとともに、住環境や道路環境を改善する必要があります。また、安全で快適なゆとりある都市空間を整備するため、緑地やオープンスペースの確保とともに、米軍基地の返還や活用、浸水被害の軽減が課題となっています。

さらに、経済活動の一層の活性化を図るために、幹線道路網の強化も求められています。

一方、地域とのつながりが薄い都市型高齢者をはじめ、急速に増加する高齢者が健康でいきいきと暮らせる環境の整備や、安心して子どもを産み育てられる子育て環境の一層の充実が求められています。また、住み慣れた地域において、必要な時に安心して医療を受けられる体制づくりが求められています。



豊かな緑に囲まれた平林寺(新座市)



新河岸川(川の再生)(志木市)

地域づくりの方向性

土地区画整理事業などによる密集市街地の解消や、道路の拡幅などによる狭あいな道路の改良を進め、ゆとりを実感できる安全で快適な都市空間を形成します。また、基地跡地については、地域の意向に沿った利用がなされるように支援していきます。

交通渋滞のない円滑で安全な自動車交通の実現に向け、国道254号和光富士見バイパスをはじめとする幹線道路を整備します。また、歩道の整備や自転車通行帯の設置を進めます。

防災・治水対策をさらに進めるとともに、自主防災組織やNPO、ボランティアなどとの連携・協働を図ります。また、帰宅困難者や災害時要援護者への対策を進めます。

新座の平林寺など武蔵野の面影を残す豊かな緑地に恵まれていることから、これらの身近な緑の保全・活用や川の再生に取り組み、都市の中にゆとりと潤いを創出します。

三富新田^{さんとも}については、平地林の落ち葉を活用した循環型農業の振興などにより、その歴史的景観の保全・活用を図り緑豊かな空間の確保を進めます。

また、家庭や企業などにおける再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化を進めます。

大消費地へのアクセス性の高さを生かし、さつまいも、にんじん、ほうれんそうなどの野菜の生産拡大を進め、収益性の高い農業を振興します。

意欲のある中小企業やベンチャー企業に対して、理化学研究所などの高度な研究開発機関との連携により高い付加価値を生み出す技術開発を支援するとともに、企業誘致を進めます。

一方、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療、介護、予防、住まい、生活支援などの在宅サービスを切れ目なく提供できる体制を整備するとともに、安心して施設サービスが受けられるように特別養護老人ホームなどの整備を支援します。

待機児童解消に向けた保育所の整備を促進するとともに、多様なニーズに応じたきめ細かい保育サービスの提供を支援するなど子育てしやすい環境づくりを進めます。

また、徹底した保健指導や地域の実情に応じた健康づくりの取組支援などにより、健康でいきいきと暮らせる生活の維持・向上を図ります。さらに、必要な時に安心して医療が受けられるように、地域の中核的な医療機関の整備を支援するとともに、地域の小児救急体制の充実を図ります。



UR都市機構による再開発(ふじみ野市)

こうした取組を通じて、高度な研究開発機能を有効に活用しながら、成長力のある次世代産業を支援するとともに、都市機能の利便性や武蔵野の豊かな緑の中でのゆとりを十分に感じながら生活できるまちづくりを進めていきます。



主な取組

I 安心・安全を広げる分野

1 安心して子育てできる環境をつくる

- 保育所、企業内保育所などの整備促進による待機児童対策の推進
- 児童相談所などの相談体制の充実

2 高齢者が安心してすごせる社会をつくる

- 24時間在宅生活を支える介護サービスの普及
- 特別養護老人ホームなどの整備支援

3 誰もが健康に暮らせる社会をつくる

- 地域の実情に応じた健康づくりの取組支援など健康長寿埼玉の推進
- NICU（新生児集中治療室）の整備など周産期医療体制の強化
- 夜間や休日にも小児救急患者に対応できる体制の確保

4 暮らしの安心・安全を確保する

- 自主防犯活動への支援
- 歩道の整備、自転車通行帯の設置、右折レーンの設置など交差点の改良

5 危機・災害に備える

- 消防の広域化の推進、消防救急無線の広域化・共同化の促進
- 自主防災組織の強化や地域における防災関係機関の連携強化
- 主要交差点における発電装置付き信号機の設置推進
- 防災拠点となる公共施設の耐震化の促進
- 河川改修の推進（新河岸川など）

II 人づくり・教育を高める分野

1 子どもを鍛え次代を担う人材を育成する

- 知・徳・体の基礎を確実に身に付けさせる「教育に関する3つの達成目標」の推進
- 小・中学校9年間を一貫した教育の推進、次世代のリーダーとして社会で活躍できる力を育むプログラムの実施などによる確かな学力と自立する力の育成
- 「埼玉の子ども70万人体験活動」や道徳教育の推進などによる豊かな心の育成
- 学校体育の充実などによる健やかな体の育成

2 誰もが力を発揮いきいきと活躍する

- 子育て期における多様な働き方の定着促進など女性のチャレンジ支援
- 障害者の自立・生活・就労支援

南西部地域

Ⅲ 経済・産業を支える分野

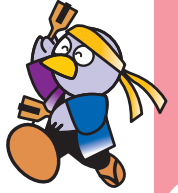
- 1 埼玉の成長を生み出す産業を振興する
 - 経営革新にチャレンジする企業の支援
 - 理化学研究所との連携による中小企業やベンチャー企業の技術開発への支援
- 2 埼玉の成長を生み出す農林業を振興する
 - 野菜などの生産拡大の支援
- 3 埼玉の成長を支える社会基盤をつくる
 - 幹線道路の未接続区間の解消（国道254号和光富士見バイパスなど）
 - 駅前顔やにぎわいのあるまちをつくる地域の実情に応じた市街地開発事業の促進

Ⅳ 環境を守り育てる分野

- 1 みどりと川を再生し自然と共存する
 - 身近な緑の保全・創出・活用
 - 三富^{さんとめ}地域における緑地や農地の保全・活用
 - 県民と取り組む川の再生の推進（黒目川など）
 - 下水道、合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備促進
 - 下水道高度処理の推進（新河岸川水循環センター）
- 2 エネルギー利用を見直し地球温暖化を防ぐ
 - 太陽光発電など再生可能エネルギーやLED照明など省エネ設備の普及・拡大
- 3 環境負荷の少ない循環型社会を創造する
 - 下水処理場における下水汚泥の資源化の推進（新河岸川水循環センター）

Ⅴ 暮らしと地域を豊かにする分野

- 1 埼玉の魅力を創造し発信する
 - 伝統芸能などの鑑賞・発表機会の充実
 - 誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の提供
 - グルメ・アニメ・歴史・産業などの地域資源を活用した多彩な体験型観光づくり
- 2 快適で暮らしやすく魅力あふれるまちをつくる
 - まちの価値を高める土地区画整理事業の実施
 - 米軍基地跡地の有効利用
- 3 一人一人が心豊かに暮らせる地域社会をつくる
 - 地域支え合いの仕組みの普及・拡大

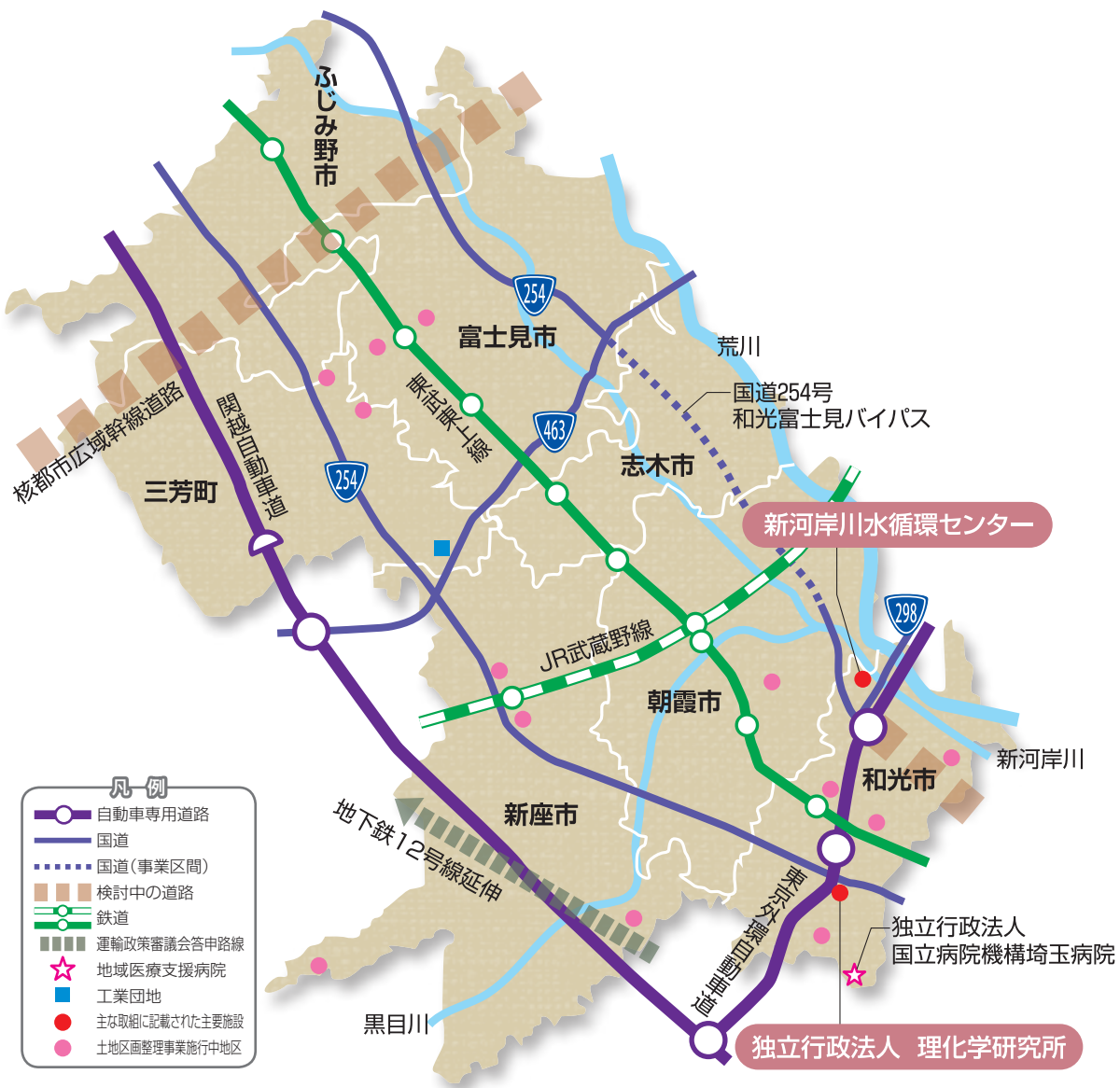


理化学研究所(和光市)



一部を緑化した小学校の校庭(朝霞市)

主な施設・交通網と基盤整備の状況



東部地域



春日部市
草加市
越谷市
八潮市

三郷市
吉川市
松伏町

人口(県人口に占める割合)	1,118,182人(15.5%)
面積(県面積に占める割合)	249.79km ² (6.6%)
人口密度	4,476.5人/km ²

国勢調査(平成22年)(総務省)

春日部市・草加市・越谷市・八潮市・三郷市・吉川市・松伏町



旧日光街道・松原遊歩道(草加市)

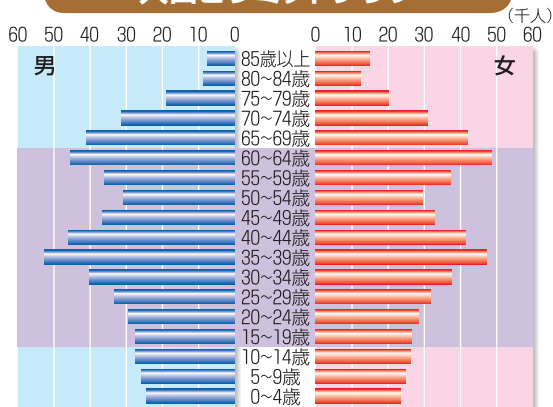
位置・地勢

- 県の東南端、東京都心から15~40km圏に位置している。
- 大半は中川の中下流部に広がる低地であり、県境を流れる江戸川をはじめ中川、大落古利根川などの河川や葛西用水などの用水路が縦横に走る水と緑に恵まれた地域である。

地域のなりたち

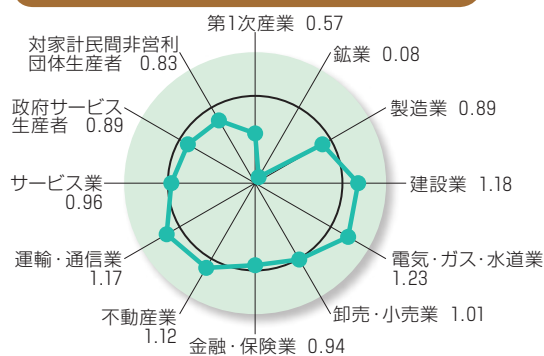
- 大小の河川に囲まれていたことから、様々な物資を運ぶ水運の拠点として発展した。一方、起伏の少ない平坦な地形であったため、洪水に襲われることも多かった。
- 江戸時代には、草加、越谷、春日部は日光街道の宿場町としてにぎわった。中川や綾瀬川などの舟運も盛んに行われ、米などの集散地として発展した。
- 古くから稲作の盛んな地域であり、中でも三郷や吉川は二郷半領と呼ばれる早場米の産地として知られていた。また、草加のせんべいや春日部の桐たんす、越谷のだるまなど特産品も多い。
- 明治以降、鉄道の開通とともに新たな市街地の形成が進み、多様な産業の集積が進んだ。
- 高度経済成長期には、草加松原団地などの大規模団地や宅地開発、工業団地が造成され、人口の急増と併せて県内有数の生産活動の盛んな地域となった。

人口ピラミッドグラフ



国勢調査(平成22年)(総務省)

産業別特化係数(全市町村平均比率=1)



埼玉の市町村民経済計算(平成21年度)(埼玉県)

地域の産業構造が県全体の平均に対してどのような特徴があるかを表す。(1より大きい産業ほど特化している。)



地域の現状と課題

東部地域では、都心への交通アクセスのよさに加え、平成17年（2005年）には東京外環自動車道が三郷南インターチェンジまで延伸されるなど幹線道路が整備されました。同年、つくばエクスプレス線も開通し、八潮駅、三郷中央駅が設置され、平成20年（2008年）にJR武蔵野線の越谷レイクタウン駅、平成24年（2012年）には吉川美南駅が新たに開業しました。JR武蔵野線沿線の新三郷らシティや越谷レイクタウンでは大規模な開発が行われ、駅周辺に大型商業施設がオープンしており、商業の集積と大規模な市街地整備も進んでいます。

また、春日部では、平成23年（2011年）には地域の特色や資源を生かした産業の振興、地域住民の活動や交流を促進するため、東部地域振興ふれあい拠点施設「ふれあいキューブ」が整備されました。

今後は、東日本大震災を教訓とした災害に強いまちづくりを進めるとともに、浸水被害を軽減するなど、安全で快適な都市空間の形成を進めていく必要があります。また、東埼玉道路の早期完成が課題となっています。

治水対策については、首都圏外郭放水路の完成により大幅な改善が図られました。さらに、越谷レイクタウンの大相模調節池の整備が求められています。

綾瀬川や中川をはじめとする水質汚濁の著しかった河川は、流域一体となった取組により水質が改善されてきました。また、きれいな川を取り戻し潤いのある水辺空間として活用するため、地域が連携・協働して川の再生に取り組むことが求められています。

農業については、稲作を中心として、こまつな、枝豆、ねぎなどの栽培も盛んで、都市近郊農業の強みを生かして地元野菜を都市部に供給する取組も拡大しています。また、農商工連携により地元野菜や果物、米粉を使った新たな商品開発も行われています。今後は、地域の特産・名産物として県内外での認知度を高め、販路拡大により地域の活性化にもつなげることが必要です。

一方、地域とのつながりが薄い都市型高齢者をはじめ、急速に増加する高齢者が安心してすごせる環境の整備や、安心して子どもを産み育てられる子育て環境の一層の充実が求められています。また、住み慣れた地域において、必要な時に安心して医療を受けられる体制づくりが求められています。



特産のなますモニュメント(吉川市)



「クレヨンしんちゃん」©臼井儀人/双葉社・シンエイ・テレビ朝日・ADK

アニメを活用した観光(春日部市)

地域づくりの方向性

安心・安全で快適な地域づくりに向けて、幹線道路の整備に加え、交通渋滞や危険な箇所を解消する交差点改良を実施します。また、歩道の整備や自転車通行帯の設置を進めます。さらに、踏切により分断されている市街地の一体化を図るため鉄道と道路の立体交差化などを進めます。既存の密集市街地における道路整備や、オープンスペースの確保を進めるとともに、駅周辺地域の市街地整備を支援し、快適で活力に満ちた都市空間を形成します。

防災・治水対策をさらに進めるとともに、自主防災組織やNPO、ボランティアなどとの連携・協働を図ります。また、帰宅困難者や災害時要援護者への対策を進めます。

中川、元荒川、葛西用水などの河川や農業用水に囲まれた豊かな水辺空間を生かしたまちづくりを進めるとともに、引き続き河川の水質改善に取り組みます。また、家庭や企業などにおける再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化を進めます。

競争力のある多様な産業の集積を進め雇用を創出します。既存の中小企業においては高付加価値の創出を目指すイノベーションを進め、産業競争力を強化します。

また、せんべいや桐たんすなどの特産品や伝統的な川魚料理、こまつなを使ったB級グルメ、米粉の利用拡大など、地域の資源を生かした観光振興を進めます。

稲作については、担い手による大規模経営を促進し、こまつな、枝豆、ねぎなどの野菜については機械化などによる生産拡大と農商工連携を進めます。

一方、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療、介護、予防、住まい、生活支援などの在宅サービスを切れ目なく提供できる体制を整備するとともに、安心して施設サービスが受けられるように特別養護老人ホームなどの整備を促進します。

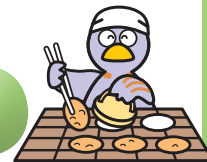
待機児童解消に向けた保育所の整備を促進するとともに、多様なニーズに応じたきめ細かい保育サービスの提供を支援するなど子育てしやすい環境づくりを進めます。

また、地域の特性を生かした生活習慣病予防対策を推進することにより、健康を保持し、生涯にわたる生活の質の維持・向上を図ります。さらに、必要な時に安心して医療が受けられるように、地域の中核的な医療機関の整備を支援します。

こうした取組を通じて、活力に満ち、豊かな水や緑に恵まれた快適な生活空間が確保されたゆとりのあるまちづくりを進めていきます。



東部地域振興ふれあい拠点施設「ふれあいキューブ」(春日部市)



主な取組

I 安心・安全を広げる分野

1 安心して子育てできる環境をつくる

- 保育所、企業内保育所などの整備促進による待機児童対策の推進
- 児童相談所などの相談体制の充実

2 高齢者が安心してすごせる社会をつくる

- 24時間在宅生活を支える介護サービスの普及
- 特別養護老人ホームなどの整備支援

3 誰もが健康に暮らせる社会をつくる

- 地域の実情に応じた健康づくりの取組支援など健康長寿埼玉の推進
- NICU（新生児集中治療室）の整備など周産期医療体制の強化

4 暮らしの安心・安全を確保する

- 自主防犯活動への支援
- 歩道の整備、自転車通行帯の設置、右折レーンの設置など交差点の改良

5 危機・災害に備える

- 消防の広域化の推進、消防救急無線の広域化・共同化の促進
- 自主防災組織の強化や地域における防災関係機関の連携強化
- 主要交差点における発電装置付き信号機の設置推進
- 防災拠点となる公共施設の耐震化の促進
- 江戸川の堤防強化の促進、河川改修や調節池の整備（新方川など）
- 越谷レイクタウンと一体化した調節池の整備（元荒川）

II 人づくり・教育を高める分野

1 子どもを鍛え次代を担う人材を育成する

- 知・徳・体の基礎を確実に身に付けさせる「教育に関する3つの達成目標」の推進
- 小・中学校9年間を一貫した教育の推進、次世代のリーダーとして社会で活躍できる力を育むプログラムの実施などによる確かな学力と自立する力の育成
- 「埼玉の子ども70万人体験活動」や道德教育の推進などによる豊かな心の育成
- 学校体育の充実などによる健やかな体の育成

2 誰もが力を発揮いきいきと活躍する

- キャリアセンター草加ランチを拠点とした若年者や女性の就業支援
- 子育て期における多様な働き方の定着促進など女性のチャレンジ支援
- 障害者の自立・生活・就労支援

東部地域

春日部市・草加市・越谷市・八潮市・三郷市・吉川市・松伏町

Ⅲ 経済・産業を支える分野

1 埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 経営革新にチャレンジする企業の支援
- 東部地域振興ふれあい拠点施設（ふれあいキューブ）を拠点とした創業・ベンチャー企業支援

2 埼玉の成長を生み出す農林業を振興する

- 優良農地の確保と担い手への利用集積の促進、農業生産を支える基盤整備の推進
- 機械化や施設整備などによる野菜の生産拡大・コスト削減の支援
- 農商工連携の拡大と開発された製品の認知度向上、販路拡大への支援

3 埼玉の成長を支える社会基盤をつくる

- 幹線道路の未接続区間の解消や鉄道と道路の立体交差化
- 駅前の顔やにぎわいのあるまちをつくる地域の実情に応じた市街地開発事業の促進
- 地域の新たな拠点となる土地区画整理事業の推進（つくばエクスプレス沿線地域）



つくばエクスプレス

Ⅳ 環境を守り育てる分野

1 みどりと川を再生し自然と共存する

- 身近な緑の保全・創出・活用
- 身近な緑が少ない地域における都市公園の整備（新たな森など）
- 県民と取り組む川の再生の推進（大落古利根川、東京葛西用水など）
- 下水道、合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備促進
- 非かんがい期における農業用水路などへの通水の実施
- 下水道高度処理の推進（中川水循環センター）

2 エネルギー利用を見直し地球温暖化を防ぐ

- 太陽光発電など再生可能エネルギーやLED照明など省エネ設備の普及・拡大

3 環境負荷の少ない循環型社会を創造する

- 浄水場における浄水発生土の資源化の推進（庄和浄水場、新三郷浄水場）
- 下水処理場における下水汚泥の資源化の推進（中川水循環センター）



新たに整備される都市公園「新たな森」完成後のイメージ（春日部市）

Ⅴ 暮らしと地域を豊かにする分野

1 埼玉の魅力を創造し発信する

- 伝統芸能などの鑑賞・発表機会の充実
- 誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の提供
- グルメ・アニメ・歴史・産業などの地域資源を活用した多彩な体験型観光づくり



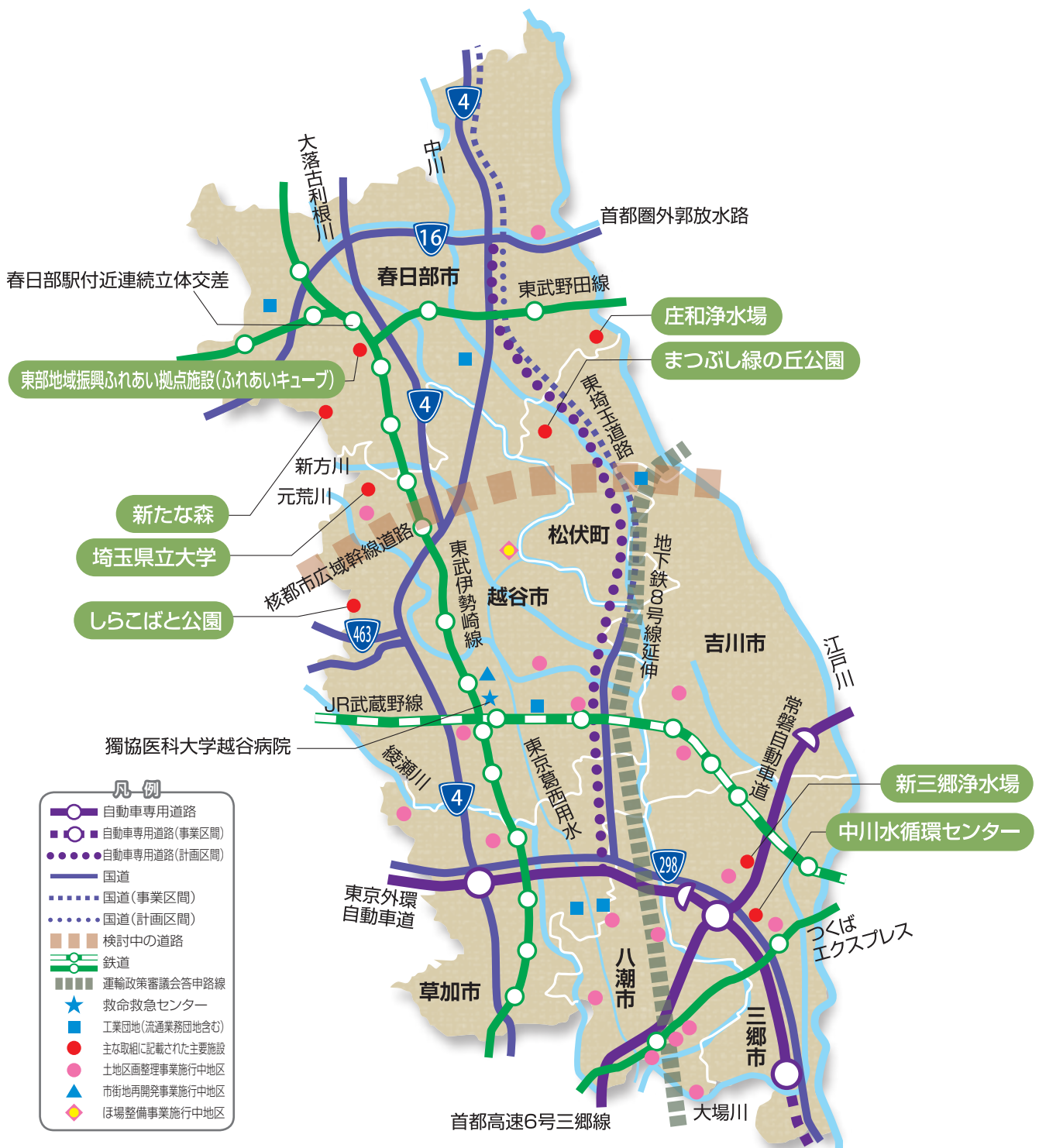
2 快適で暮らしやすく魅力あふれるまちをつくる

- まちの価値を高める土地区画整理事業や市街地再開発事業の実施
- 生活に潤いと安らぎを与える都市公園の整備（しらこぼと公園など）

3 一人一人が心豊かに暮らせる地域社会をつくる

- 地域支え合いの仕組みの普及・拡大

主な施設・交通網と基盤整備の状況



さいたま地域



さいたま市

さいたま市

人口(県人口に占める割合)	1,222,434人(17.0%)
面積(県面積に占める割合)	217.49km ² (5.7%)
人口密度	5,620.6人/km ²

国勢調査(平成22年)(総務省)



位置・地勢

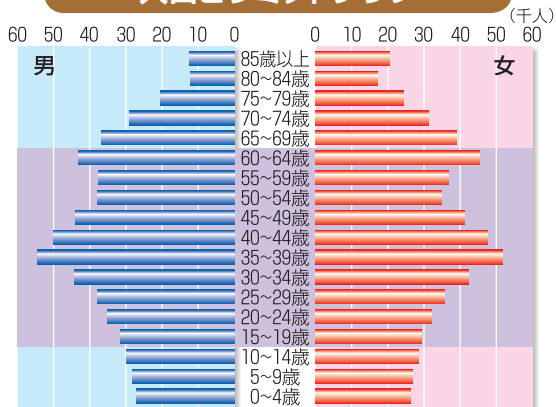
見沼田圃とさいたま新都心

- 県の南部、東京都心から20~30km圏に位置している。
- 大宮台地や岩槻台地などの台地と、河川周辺の低地により構成される起伏の少ない平坦な地形である。

地域のなりたち

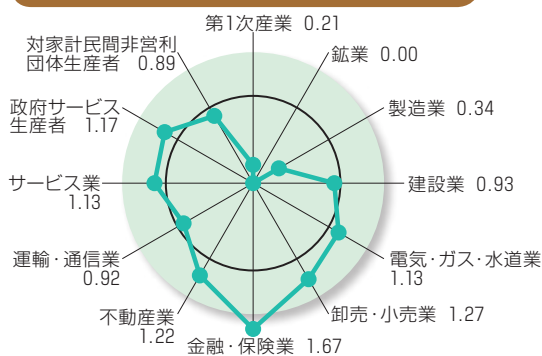
- 氷川神社の門前町、岩槻の城下町、中山道や脇往還の宿場町として古くから栄えたまちである。
- 見沼田圃は、かつて沼や湿地帯が広がる地域であったが、江戸時代に八丁堤が築かれ、かんがい用水池(ため池)として活用されるようになった。その後、ため池に代わる用水路を利根川から引いて見沼代用水を完成させ、新田開発した。
- 明治以降は、交通の要衝として、また、行政・商業・業務などの多様な機能が集積するまちとして発展した。
- 関東大震災後、東京から植木職人や盆栽職人が移住してきたことから盆栽づくりが盛んになった。
- 平成12年(2000年)にさいたま新都心が整備され、国の10省庁18機関(当時)が移転した。平成13年(2001年)には浦和、大宮、与野の3市合併によりさいたま市が誕生し、平成15年(2003年)には政令指定都市に移行し、平成17年(2005年)には岩槻市と合併した。

人口ピラミッドグラフ



国勢調査(平成22年)(総務省)

産業別特化係数(全市町村平均比率=1)



埼玉の市町村民経済計算(平成21年度)(埼玉県)

地域の産業構造が県全体の平均に対してどのような特徴があるかを表す。(1より大きい産業ほど特化している。)



地域の現状と課題

さいたま地域には、国や県など多くの行政機関のほか、彩の国さいたま芸術劇場や埼玉スタジアム2002公園、鉄道博物館などの文化、スポーツの拠点となる施設が数多く立地しています。また、平成23年（2011年）に設置された次世代自動車支援センター埼玉や産学連携支援センター埼玉が入居する新都心ビジネス交流プラザなど、多様な機関が集積しています。

一方、地域に根ざした盆栽や江戸時代から続く人形づくりなどの特色ある伝統文化、広く親しまれているサッカーなど多彩な地域資源を持ち、見沼田圃や荒川、元荒川、サクラソウ自生地などの緑地や水辺空間にも恵まれています。

今後は、高次の都市機能を拡充しつつ、首都機能の一翼を担う都市として、活力やにぎわいを創出し県全体に波及させていくことが期待されています。また、東日本大震災を教訓とした災害に強いまちづくりを進めるとともに、浸水被害を軽減するなど、安全で快適な都市空間の形成を進めていく必要があります。さらに、東日本を代表する広域交通の要衝としての優位性をより高めていくための道路網・鉄道網の一層の充実が重要となっています。

貴重な大規模緑地である見沼田圃については、治水対策に加え潤いのあるゆとり空間を確保する観点からも保全・活用・創造を進め、水や緑にふれあうことのできる安全で快適な地域を形成することが求められています。

一方、地域とのつながりが薄い都市型高齢者をはじめ急速な高齢化への対応とともに、安心して子どもを産み育てられる医療体制の一層の充実が求められています。また、住み慣れた地域において、必要な時に安心して医療を受けられる体制づくりが求められています。



さいたま新都心けやき広場



岩槻人形

地域づくりの方向性

広域行政や商業・業務の機能が集積し、本県発展の象徴的な場所であるさいたま新都心において、県立小児医療センターなどの移転整備を進めます。高度な周産期医療と救命救急医療を提供する医療拠点として整備することで、県民の安心・安全のシンボルとします。

新都心ビジネス交流プラザなどに集積している各種支援機関を活用して産業競争力の強化と交流の活性化を図るとともに、高次の国際的競争力を持つ企業の育成や支援を進め、その効果を県全体に波及させていきます。

既存の拠点施設を活用しながら県全体の文化、スポーツを振興するとともに、多様な地域資源をネットワーク化し、国内外から多くの人々が訪れる魅力ある観光拠点の形成を支援します。また、さいたま市と連携しながら引き続き地下鉄7号線の延伸を検討します。

さらに、防災・治水対策を進めるとともに、自主防災組織やNPO、ボランティアなどとの連携・協働を図ります。また、帰宅困難者や災害時要援護者への対策を進めます。

首都圏を代表する大規模緑地空間である見沼田圃^{たんぼ}の保全・活用・創造に向けて、適切な土地利用を誘導するとともに、農業体験を通じた都市住民との交流など地域農業の振興を図ります。また、家庭や企業などにおける再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化を進めます。

一方、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療、介護、予防、住まい、生活支援などの在宅サービスを切れ目なく提供できる体制を整備します。

待機児童解消に向けた保育所の整備を促進するとともに、多様なニーズに応じたきめ細かい保育サービスの提供を支援します。

また、地域の特性を生かした生活習慣病予防対策を推進することにより、健康を保持し、生涯にわたる生活の質の維持・向上を図ります。さらに、必要な時に安心して医療が受けられるように、地域の中核的な医療機関の整備を支援します。

こうした取組を通じて、創業や就業などの機会にあふれ、個性豊かで活力に満ち、広大な田園景観も兼ね備えたゆとりあるまちづくりを進めていきます。



鉄道博物館



氷川神社



主な取組

I 安心・安全を広げる分野

1 安心して子育てできる環境をつくる

- 企業内保育所などの整備促進による待機児童対策の推進

2 高齢者が安心してすごせる社会をつくる

- 24時間在宅生活を支える介護サービスの普及

3 誰もが健康に暮らせる社会をつくる

- 地域の実情に応じた健康づくりの取組支援など健康長寿埼玉の推進
- NICU（新生児集中治療室）の整備など周産期医療体制の強化
- さいたま新都心における医療拠点の整備

4 暮らしの安心・安全を確保する

- 自主防犯活動への支援

5 危機・災害に備える

- 消防の広域化の推進、消防救急無線の広域化・共同化の促進
- 自主防災組織の強化や地域における防災関係機関の連携強化
- 主要交差点における発電装置付き信号機の設置推進
- 防災拠点となる公共施設の耐震化の促進
- 河川改修や調節池の整備（芝川、綾瀬川など）

II 人づくり・教育を高める分野

1 子どもを鍛え次代を担う人材を育成する

- 次世代のリーダーとして社会で活躍できる力を育むプログラムの実施などによる確かな学力と自立する力の育成
- 「埼玉の子ども70万人体験活動」や道徳教育の推進などによる豊かな心の育成
- 学校体育の充実などによる健やかな体の育成

2 誰もが力を発揮いきいきと活躍する

- ヤングキャリアセンター埼玉を拠点とした若年者の就業支援
- 中高年就職活動支援コーナー埼玉を拠点とした中高年齢者の再就職支援
- 女性キャリアセンターを拠点とした女性の就業支援
- 男女共同参画推進センターにおける情報提供や相談などの実施
- 子育て期における多様な働き方の定着促進など女性のチャレンジ支援
- 障害者の自立・生活・就労支援

Ⅲ 経済・産業を支える分野

- 1 埼玉の成長を生み出す産業を振興する
 - 経営革新にチャレンジする企業の支援
 - 新都心ビジネス交流プラザの各種支援機関を活用した産業競争力の強化
- 2 埼玉の成長を生み出す農林業を振興する
 - 野菜、植木、花きなどの生産拡大の支援
- 3 埼玉の成長を支える社会基盤をつくる
 - 駅前の顔やにぎわいのあるまちをつくる地域の実情に応じた市街地開発事業の促進

Ⅳ 環境を守り育てる分野

- 1 みどりと川を再生し自然と共存する
 - 身近な緑の保全・創出・活用
 - 身近な緑が少ない地域における都市公園の整備（しらこぼと公園）
 - 見沼田圃たんぼにおける適切な土地利用の指導、緑地や農地の保全・活用
 - 県民と取り組む川の再生の推進（芝川など）
 - 下水道、合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備促進
- 2 エネルギー利用を見直し地球温暖化を防ぐ
 - 電気自動車などの次世代自動車普及モデル事業の推進
 - 太陽光発電など再生可能エネルギーやLED照明など省エネ設備の普及・拡大
- 3 環境負荷の少ない循環型社会を創造する
 - 浄水場における浄水発生土の資源化の推進（大久保浄水場）



太陽光発電を活用して水素を製造する「次世代ソーラー水素ステーション」

Ⅴ 暮らしと地域を豊かにする分野

- 1 埼玉の魅力を創造し発信する
 - 彩の国さいたま芸術劇場を中心とした文化芸術の創造・発信
 - 伝統芸能などの鑑賞・発表機会の充実
 - 誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の提供
 - 多様な機関・団体と連携した観光客の誘致や回遊の促進
- 2 快適で暮らしやすく魅力あふれるまちをつくる
 - 第3セクター鉄道の経営の支援
 - 運輸政策審議会答申（平成12年1月）に位置付けられた新線の検討（地下鉄7号線）
 - まちの価値を高める土地区画整理事業や市街地再開発事業の実施
 - 生活に潤いと安らぎを与える都市公園の整備（しらこぼと公園）
 - 市民農園の利用促進など農業体験の機会の充実



3 一人一人が心豊かに暮らせる地域社会をつくる

- 地域支え合いの仕組みの普及・拡大
- 埼玉国際ジュニアサッカー大会
など国際的なイベントの充実



埼玉国際ジュニアサッカー大会

主な施設・交通網と基盤整備の状況



県央地域



鴻巣市
上尾市
桶川市

北本市
伊奈町

鴻巣市・上尾市・桶川市・北本市・伊奈町

人口(県人口に占める割合)	529,658人(7.4%)
面積(県面積に占める割合)	172.94km ² (4.6%)
人口密度	3,062.7人/km ²

国勢調査(平成22年)(総務省)

位置・地勢

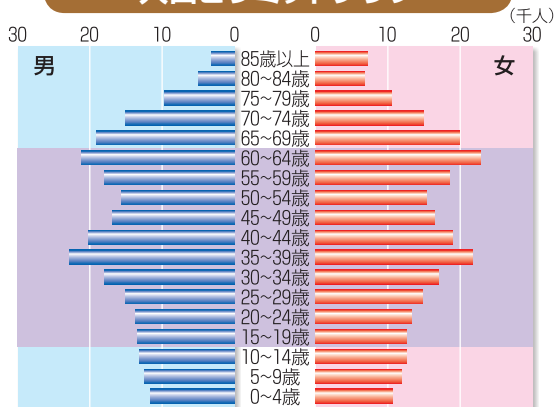
紅花畑(桶川市)

- 県のほぼ中央部、東京都心から35~50km圏に位置している。
- 大宮台地上の起伏の少ない平坦な地形であり、西端には荒川、東側には元荒川、綾瀬川などの河川が流れている。

地域のなりたち

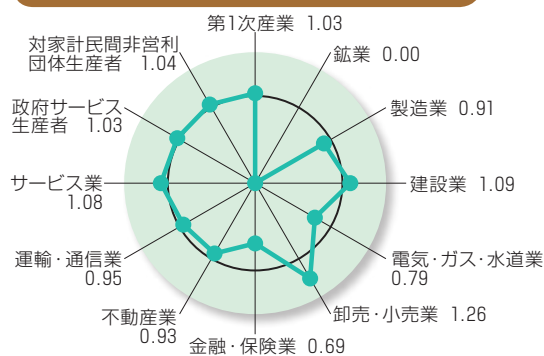
- 古くから荒川や元荒川などの優れた水利条件を生かし、田園地帯として発展してきた。
- 江戸時代には、上尾、桶川、北本、鴻巣は中山道の宿場町として栄えた。荒川の舟運の要衝でもあり、周辺で生産される米麦などの農産物が集積する地としても発展した。
- 桶川の紅花や鴻巣のひな人形などが特産品として知られている。
- 明治以降、鉄道の開通とともに、駅を中心として新たな市街地が形成された。その後、製糸工場や機械・金属・食料品などの工場が進出し、次第に工業都市としての下地が作られ、製造業を中心とした産業の集積が進んだ。
- 昭和40年代以降は、宅地化が進行し人口が急増した。昭和58年(1983年)には埼玉新都市交通伊奈線(ニューシャトル)が開通し、沿線では新たな市街地の形成や、県立がんセンターや県民活動総合センターなど医療や県民活動の中核施設が整備された。

人口ピラミッドグラフ



国勢調査(平成22年)(総務省)

産業別特化係数(全市町村平均比率=1)



埼玉の市町村民経済計算(平成21年度)(埼玉県)

地域の産業構造が県全体の平均に対してどのような特徴があるかを表す。(1より大きい産業ほど特化している。)



地域の現状と課題

県央地域は、都心への交通利便性の高さや、大手自動車メーカーなど数多くの大規模な工場の立地により発展しています。また、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）、上尾道路の整備が進む中で、関東や東日本の拠点工場の大型立地も見られます。平成22年（2010年）3月には桶川北本インターチェンジや上尾道路が供用開始となり、関越自動車道や中央自動車道と結ばれました。今後、圏央道は東北縦貫自動車道方面に延伸されるとともに、上尾道路も圏央道以北の整備が進められる予定です。

一方、中山道の宿場から発展した商店街では、各種イベントや特色ある商品開発などにより賑わいの復活を図っています。また、地域の特産であるポピーや紅花などを活用したイベントは知名度の向上に寄与しています。

地域の北部では大規模な水田地帯が広がり、米や麦が栽培されるほか、花き類や果実、畜産など多彩な農畜産物が生産されています。地域の南部でも農業法人による大規模経営や、果実のブランド化など特色ある農業が展開されています。

今後は、東日本大震災を教訓とした災害に強いまちづくりを進めるとともに、浸水被害を軽減するなど、安全で快適な都市空間の形成を進めていく必要があります。また、圏央道延伸により、さらに利便性が向上する交通網を生かし、緑豊かで良好な自然環境と調和した新たな産業・物流拠点を形成し、地域の活力を高めていくことが求められています。

また、駅周辺や幹線道路沿いに都市機能が集積する一方、日本一の川幅を誇る荒川の河川敷をはじめ豊かな緑や水辺空間が数多く残っていることから、これらの自然環境を保全・活用し、便利で快適な都市機能と豊かな自然環境が調和した暮らしやすい地域づくりを進める必要があります。

駅周辺のマンションや新たな住宅地には子育て世代も移り住んできている一方で、かつて若年者世帯の多かった大規模な住宅団地では高齢化が進んでいます。そこで、急速に増加する高齢者が安心してすごせる環境の整備や、安心して子どもを生き育てられる子育て環境の一層の充実が求められています。また、住み慣れた地域において、必要な時に安心して医療を受けられる体制づくりが求められています。



間もなく収穫を迎える梨（上尾市）



川幅日本一の荒川・御成橋（鴻巣市）

地域づくりの方向性

圏央道インターチェンジ周辺や上尾道路沿線など交通便利性が飛躍的に向上する地域を中心に、地元市や民間と連携して周辺環境との調和に配慮した計画的な開発を誘導します。これにより、競争力のある多様な産業の集積を進め、新たな雇用を創出します。

広域物流拠点としての魅力を高める幹線道路やインターチェンジへのアクセス道路を整備します。また、歩道の整備や自転車通行帯の設置を進めます。

防災・治水対策をさらに進めるとともに、自主防災組織やNPO、ボランティアなどとの連携・協働を図ります。また、帰宅困難者や災害時要援護者への対策を進めます。

地域の恵まれた自然環境を生かし、緑地空間の保全・活用や河川の浄化を進め、県民が水や緑とふれあえるゆとりある生活環境を形成します。また、家庭や企業などにおける再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化を進めます。

既存の中小企業においては高付加価値の創出を目指すイノベーションを進め、産業競争力を強化します。日本一の川幅を誇る荒川や自転車道などの観光資源を活用するとともに、B級グルメなど新たな資源の開発を支援し、観光の振興を進めます。

米麦をはじめ、プリムラやパンジーなどの花き、こまつなやトマトなどの野菜、梨などの果樹の生産が盛んなことから、農業基盤の整備や農地の利用集積、新品種の導入などを進め、農産物の生産性を向上します。また、自ら創意工夫し、意欲的に経営発展に取り組む農業者に対し、栽培技術の改善や経営の向上、法人化などの支援を行い、意欲ある多様な担い手が活動できる地域農業の実現を図ります。

一方、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療、介護、予防、住まい、生活支援などの在宅サービスを切れ目なく提供できる体制を整備するとともに、安心して施設サービスが受けられるように特別養護老人ホームなどの整備を支援します。

待機児童解消に向けた保育所の整備を促進するとともに、多様なニーズに応じたきめ細かい保育サービスの提供を支援するなど子育てしやすい環境づくりを進めます。

必要な時に安心して医療が受けられるように、地域の中核的な医療機関の整備を支援するとともに、地域の小児救急体制の充実を図ります。また、県立がんセンターの建替えを進めます。

こうした取組を通じて、子どもから高齢者まで安心して豊かに暮らすことができるように、緑に恵まれた自然環境と魅力ある都市機能が調和した、快適で活力あるまちづくりを進めていきます。



鴻巣農産物直売所パンジーハウス



がんセンター新病院完成図(伊奈町)



主な取組

I 安心・安全を広げる分野

1 安心して子育てできる環境をつくる

- 保育所、企業内保育所などの整備促進による待機児童対策の推進
- 児童相談所などの相談体制の充実

2 高齢者が安心してすごせる社会をつくる

- 24時間在宅生活を支える介護サービスの普及
- 特別養護老人ホームなどの整備支援

3 誰もが健康に暮らせる社会をつくる

- 地域の実情に応じた健康づくりの取組支援など健康長寿埼玉の推進
- 夜間や休日にも小児救急患者に対応できる体制の確保
- がんセンター新病院の建設

4 暮らしの安心・安全を確保する

- 自主防犯活動への支援
- 歩道の整備、自転車通行帯の設置、右折レーンの設置など交差点の改良

5 危機・災害に備える

- 消防の広域化の推進、消防救急無線の広域化・共同化の促進
- 自主防災組織の強化や地域における防災関係機関の連携強化
- 主要交差点における発電装置付き信号機の設置推進
- 防災拠点となる公共施設の耐震化の促進
- 河川改修や調節池の整備（原市沼川など）

II 人づくり・教育を高める分野

1 子どもを鍛え次代を担う人材を育成する

- 知・徳・体の基礎を確実に身に付けさせる「教育に関する3つの達成目標」の推進
- 小・中学校9年間を一貫した教育の推進、次世代のリーダーとして社会で活躍できる力を育むプログラムの実施などによる確かな学力と自立する力の育成
- 「埼玉の子ども70万人体験活動」や道徳教育の推進などによる豊かな心の育成
- 学校体育の充実などによる健やかな体の育成

2 誰もが力を発揮いきいきと活躍する

- 子育て期における多様な働き方の定着促進など女性のチャレンジ支援
- 障害者の自立・生活・就労支援

Ⅲ 経済・産業を支える分野

1 埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 経営革新にチャレンジする企業の支援
- 圏央道沿線地域に加えて圏央道以北地域への企業誘致の推進

2 埼玉の成長を生み出す農林業を振興する

- 優良農地の確保と担い手への利用集積の促進
- 花き、野菜、果樹などの生産拡大の支援

3 埼玉の成長を支える社会基盤をつくる

- 圏央道の整備促進
- インターチェンジへのアクセス道路や企業誘致などを促進する幹線道路の整備
- 幹線道路の未接続区間の解消や鉄道と道路の立体交差化
- 駅前の顔やにぎわいのあるまちをつくる地域の実情に応じた市街地開発事業の促進

Ⅳ 環境を守り育てる分野

1 みどりと川を再生し自然と共存する

- 身近な緑の保全・創出・活用
- 緑のトラスト保全地の取得などによる身近な緑地の保全
- 県民と取り組む川の再生の推進（元荒川など）
- 下水道、合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備促進
- 下水道高度処理の推進（元荒川水循環センター）

2 エネルギー利用を見直し地球温暖化を防ぐ

- 太陽光発電など再生可能エネルギーやLED照明など省エネ設備の普及・拡大

3 環境負荷の少ない循環型社会を創造する

- 下水処理場における下水汚泥の資源化の推進（元荒川水循環センター）

Ⅴ 暮らしと地域を豊かにする分野

1 埼玉の魅力を創造し発信する

- 伝統芸能などの鑑賞・発表機会の充実
- 誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の提供
- グルメ・歴史・産業などの地域資源を活用した多彩な体験型観光づくり

2 快適で暮らしやすく魅力あふれるまちをつくる

- まちの価値を高める土地区画整理事業や市街地再開発事業の実施

3 一人一人が心豊かに暮らせる地域社会をつくる

- 地域支え合いの仕組みの普及・拡大



自転車を楽しむ若者たち(上尾市)



整備が進む圏央道桶川北本インターチェンジ(桶川市)

主な施設・交通網と基盤整備の状況



川越比企地域



川越市 嵐山町
 東松山市 小川町
 坂戸市 川島町
 鶴ヶ島市 吉見町
 毛呂山町 鳩山町
 越生町 ときがわ町
 滑川町 東秩父村

人口(県人口に占める割合)	799,470人(11.1%)
面積(県面積に占める割合)	626.67km ² (16.5%)
人口密度	1,275.7人/km ²

国勢調査(平成22年)(総務省)

川越市・東松山市・坂戸市・鶴ヶ島市・毛呂山町・越生町・滑川町・嵐山町・小川町・川島町・吉見町・鳩山町・ときがわ町・東秩父村

嵐山渓谷

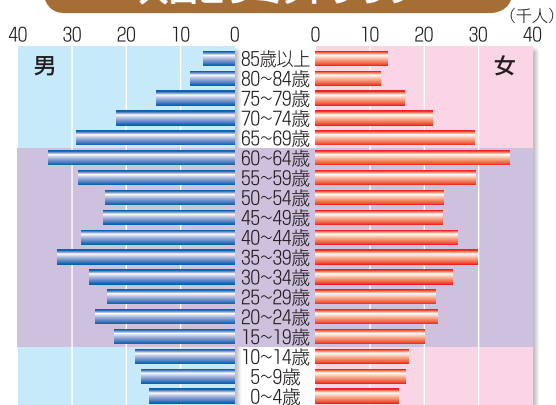
位置・地勢

- 県のほぼ中央部、東京都心から30~70km圏に位置している。
- 外秩父山地の外縁に属する西側から、岩殿・比企などの丘陵地帯、入間・川越などの台地を経て、東端の荒川低地へと続く起伏に富んだ地形となっている。

地域のなりたち

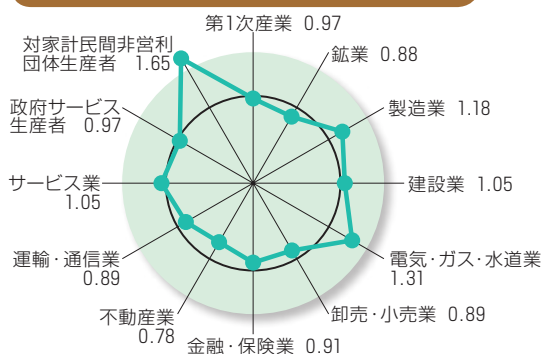
- 江戸時代には、城下町川越は新河岸川の舟運により江戸との活発な経済・文化交流が行われ、「小江戸」と呼ばれるほどに繁栄した。
- 東松山、坂戸、嵐山、小川には川越・児玉往環や日光脇往還の宿場町が置かれ、農産物や和紙などの取引が盛んに行われた。
- 明治以降、川越は本県最大の商業都市となり、県内で初めて市制を施行した。また、鉄道の開通とともに各駅の周辺に新たな市街地の形成が進んだ。
- 昭和40年代から50年代にかけて鳩山ニュータウンなどの大規模な住宅開発が進み、人口が急激に増加した。
- 昭和40年に県内最大規模の川越狭山工業団地が造成されたのをはじめ、関越自動車道や首都圏中央連絡自動車道(圏央道)などの交通網の整備に伴い工業団地が数多く造成され、多様な産業の集積が進んだ。

人口ピラミッドグラフ



国勢調査(平成22年)(総務省)

産業別特化係数(全市町村平均比率=1)



埼玉の市町村民経済計算(平成21年度)(埼玉県)

地域の産業構造が県全体の平均に対してどのような特徴があるかを表す。(1より大きい産業ほど特化している。)



地域の現状と課題

川越比企地域では、平成14年（2002年）に開業した東武東上線つきのわ駅や、既存の若葉駅、高坂駅などの駅周辺において再整備や大型商業施設の立地が進み、にぎわいが創出されています。

平成15年（2003年）には川越が県内初の中核市に移行し、川越駅西口においては「西部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）」の整備が平成26年度（2014年度）の完成に向けて進んでいます。

平成22年（2010年）には、圏央道が地域内の全区間で開通し各インターチェンジ周辺を中心に企業立地のポテンシャルが大きく向上しました。川島インター産業団地及び川越第二産業団地において企業立地が進み、平成21年（2009年）には小川で大手自動車メーカーの工場が稼働しました。また、関越自動車道坂戸西スマートインターチェンジの整備が進められるとともに、圏央鶴ヶ島インターチェンジに近接する農業大学の移転後の跡地の活用により、今後も多様な企業の進出が見込まれています。

農業においては、米麦やほうれんそう、さといも、いちご、のらぼう菜などの野菜をはじめ、狭山茶、越生の梅、毛呂山のゆずなど多彩な特産品が生産されています。

また、和紙や建具などの伝統的な地場産業も各地に残っており、小川や東秩父には県指定の伝統的手工芸品の展示や紙すきなどの実演を行う観光施設があります。

このほか、川越まつり、小川町七夕まつりや東松山のスリーデーマーチなど知名度の高い伝統行事やイベント、嵐山の菅谷館跡や吉見百穴などの史跡、川越の蔵造りの町並みや国営武蔵丘陵森林公園などの緑豊かな優れた自然環境といった魅力ある多様な地域資源にも恵まれています。

今後は、東日本大震災を教訓とした災害に強いまちづくりを進めるとともに、企業誘致などを促進する幹線道路の整備や、浸水被害の軽減、土砂災害の防止、川の再生に向けた取組を継続していく必要があります。

また、豊富な地域資源を生かして、観光の振興や都市と農村部の交流の活性化を図る必要があります。さらに、嵐山渓谷などの貴重な自然環境の保全・活用も求められています。

一方、急速に増加する高齢者が健康でいきいきと暮らせる環境の整備や、安心して子どもを生み育てられる子育て環境の一層の充実が求められています。また、住み慣れた地域において、必要な時に安心して医療を受けられる体制づくりが求められています。



すねあひあまごい
降雨祈願のため4年に1度行われる脚折雨乞（鶴ヶ島市）

地域づくりの方向性

圏央道と関越自動車道が結節する地域特性を生かしつつ、地元市町や民間と連携して周辺の自然や景観、農地・林地との調和に配慮し、産業基盤整備を進めます。

また、円滑で安全な道路網を形成し、経済活動を支えるため、国道407号バイパスなどのインターチェンジへのアクセス道路をはじめ、幹線道路を整備します。さらに、歩道の整備や自転車通行帯の設置を進めます。

川島の中央防災基地や防災航空センターなどを核とする危機管理防災体制を強化するとともに治水対策をさらに進めます。また、自主防災組織やNPO、ボランティアなどとの連携・協働を図ります。さらに、帰宅困難者や災害時要援護者への対策を進めます。

環境に配慮した河川改修を進めるとともに、河川の水質改善に向けた河川浄化の取組や親水機能の保全・創出を進めます。また、家庭や企業などにおける再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化を進めます。

多様な企業が集積を図り、雇用の創出など地域の活力を高めます。また、企業の異業種間交流や、地域内に数多く存在する大学との産学連携を支援します。

多彩な観光資源のネットワーク化を図り、観光客が繰り返し訪れる魅力ある観光地づくりを進めていきます。

収益性が高い農業を振興するため、農業基盤整備や農地の利用集積、機械化などによる生産拡大を進めます。また、地産地消や農商工連携などによる販路拡大を推進し、農業法人や新規就農者の育成を図ります。

木材生産の低コスト化や県産木材の安定供給体制の整備などにより林業振興を図ります。地球温暖化防止や水源かん養など森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、彩の国みどりの基金などを活用した森林整備を行います。また、森林ボランティア団体や企業などと連携した県民参加の森林づくりを進めます。

一方、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療、介護、予防、住まい、生活支援などの在宅サービスを切れ目なく提供できる体制を整備するとともに、安心して施設サービスが受けられるように特別養護老人ホームなどの整備を支援します。

また、待機児童解消に向けた保育所の整備を促進するとともに、多様なニーズに応じたきめ細かい保育サービスの提供を支援するなど子育てしやすい環境づくりを進めます。

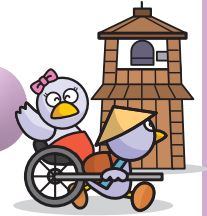
徹底した保健指導や地域の実情に応じた健康づくりの取組支援などにより、健康でいき

いきと暮らせる生活の維持・向上を図ります。また、必要な時に安心して医療が受けられるように、地域の中核的な医療機関の整備を支援するとともに、周産期医療体制や高度救命救急医療体制の充実を図ります。

こうした取組を通じて、県下屈指の数を誇るNPOをはじめ、地域団体、大学などと一体となって、多彩な自然や農山村の環境と、業務、商業、文化などの都市機能が調和したまちづくりを進めていきます。



蔵造りの町並み(川越市)



主な取組

I 安心・安全を広げる分野

1 安心して子育てできる環境をつくる

- 保育所、企業内保育所などの整備促進による待機児童対策の推進
- 児童相談所などの相談体制の充実

2 高齢者が安心してすごせる社会をつくる

- 24時間在宅生活を支える介護サービスの普及
- 特別養護老人ホームなどの整備支援

3 誰もが健康に暮らせる社会をつくる

- 地域の実情に応じた健康づくりの取組支援など健康長寿埼玉の推進
- NICU（新生児集中治療室）の整備など周産期医療体制の強化
- 高度救命救急医療体制の強化

4 暮らしの安心・安全を確保する

- 自主防犯活動への支援
- 歩道の整備、自転車通行帯の設置、右折レーンの設置など交差点の改良

5 危機・災害に備える

- 消防の広域化の推進、消防救急無線の広域化・共同化の促進
- 自主防災組織の強化や地域における防災関係機関の連携強化
- 主要交差点における発電装置付き信号機の設置推進
- 中央防災基地や防災航空センターなどを核とした危機管理防災体制の強化
- 防災拠点となる公共施設の耐震化の促進
- 河川改修の推進（市野川など）
- 土砂災害防止施設の整備や治山事業の実施



中央防災基地での災害対策用備蓄物資搬入の様子（川島町）

II 人づくり・教育を高める分野

1 子どもを鍛え次代を担う人材を育成する

- 知・徳・体の基礎を確実に身に付けさせる「教育に関する3つの達成目標」の推進
- 小・中学校9年間を一貫した教育の推進、次世代のリーダーとして社会で活躍できる力を育むプログラムの実施などによる確かな学力と自立する力の育成
- 「埼玉の子ども70万人体験活動」や道徳教育の推進などによる豊かな心の育成
- 学校体育の充実などによる健やかな体の育成

2 誰もが力を発揮しいきいきと活躍する

- 子育て期における多様な働き方の定着促進など女性のチャレンジ支援
- 障害者の自立・生活・就労支援

Ⅲ 経済・産業を支える分野

1 埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 経営革新にチャレンジする企業の支援
- 産学官連携や知的財産活用による新製品・新技術の開発支援
- 圏央道沿線地域に加えて圏央道以北地域への企業誘致の推進



県産木材を活用した中学校(ときがわ町)

2 埼玉の成長を生み出す農林業を振興する

- 優良農地の確保と担い手への利用集積の促進、農業生産を支える基盤整備の推進
- 茶、野菜などの生産拡大の支援
- 木材生産の低コスト化や県産木材の安定供給体制の整備

3 埼玉の成長を支える社会基盤をつくる

- インターチェンジへのアクセス道路や企業誘致などを促進する幹線道路の整備(国道407号など)
- 幹線道路の未接続区間の解消や鉄道と道路の立体交差化
- 中山間地域の生活を支える道路の整備
- 駅前の顔やにぎわいのあるまちをつくる地域の実情に応じた市街地開発事業の促進
- 豊かな田園環境と調和した産業基盤の整備
- 西部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)の整備



西部地域振興ふれあい拠点施設(仮称)完成予想図(川越市)

Ⅳ 環境を守り育てる分野

1 みどりと川を再生し自然と共存する

- 身近な緑の保全・創出・活用
- 三富^{さんどめ}地域における緑地や農地の保全・活用
- 森林ボランティア団体や企業などによる県民参加の森林づくりの推進
- 県民と取り組む川の再生の推進(入間川、都幾川、古川排水路、長楽用水路など)
- 下水道、合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備促進
- 下水道高度処理の推進(新河岸川上流水循環センター)

2 エネルギー利用を見直し地球温暖化を防ぐ

- エコタウンプロジェクトの推進
- 太陽光発電など再生可能エネルギーやLED照明など省エネ設備の普及・拡大

3 環境負荷の少ない循環型社会を創造する

- 間伐材や家畜排せつ物などのバイオマスの利活用の促進
- 浄水場における浄水発生土の資源化の推進(吉見浄水場)



V 暮らしと地域を豊かにする分野

1 埼玉の魅力を創造し発信する

- ▶ 伝統芸能などの鑑賞・発表機会の充実
- ▶ 誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の提供
- ▶ 多様な機関・団体と連携した観光客の誘致や回遊の促進

2 快適で暮らしやすく魅力あふれるまちをつくる

- ▶ 生活交通を支える路線バスの維持・確保支援
- ▶ まちの価値を高める土地区画整理事業の実施

3 一人一人が心豊かに暮らせる地域社会をつくる

- ▶ 地域支え合いの仕組みの普及・拡大



日本スリーデーマーチ(東松山市)

主な施設・交通網と基盤整備の状況



西部地域



所沢市 入間市
飯能市 日高市
狭山市

人口(県人口に占める割合)	788,545人(11.0%)
面積(県面積に占める割合)	406.43km ² (10.7%)
人口密度	1,940.2人/km ²

国勢調査(平成22年)(総務省)

所沢市・飯能市・狭山市・入間市・日高市



広大な狭山茶畑(入間市)

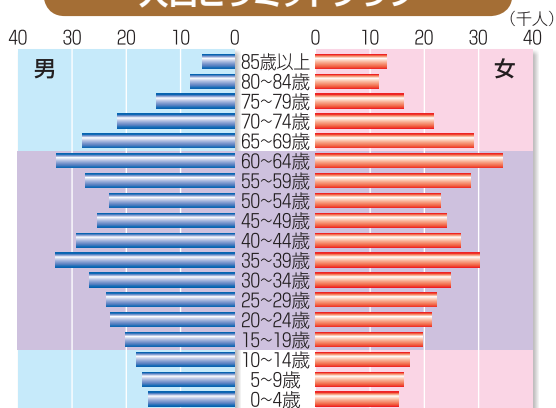
位置・地勢

- 県の西部、東京都心から30~60km圏に位置している。
- 外秩父山地から、高麗・加治・狭山などの丘陵を経て、東端の武蔵野台地へと続く、豊かな自然に恵まれた地域である。

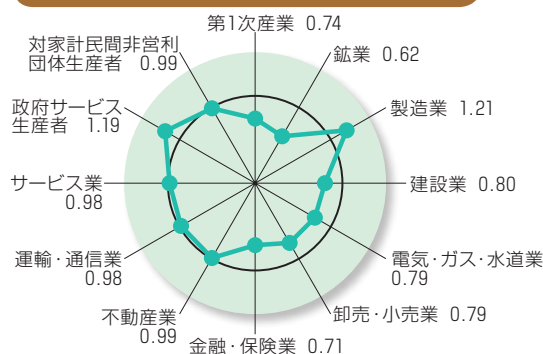
地域のなりたち

- 日高や飯能などの一帯には奈良時代に渡来人が移り住み、朝鮮半島の文化や技術を伝えた。
- 江戸時代には所沢、狭山、入間は街道などの交通や物流の中継地となり、農産物や薪などの集積するまちとして発展した。入間川や高麗川を利用して江戸に木材を運びいかだ流しも盛んに行われた。
- 明治以降鉄道が開通すると、駅を中心に新たに市街地が形成された。
- 所沢には明治44年(1911年)にわが国初の飛行場が設置され、航空発祥の地となっている。その後、所沢、狭山、入間には軍関係施設が立地し、戦後は米軍に接収された。
- 高度経済成長期には、大規模な住宅団地や工業団地が造成され、人口が急増するとともに県内有数の産業集積地となった。

人口ピラミッドグラフ



産業別特化係数(全市町村平均比率=1)



埼玉の市町村民経済計算(平成21年度)(埼玉県)

地域の産業構造が県全体の平均に対してどのような特徴があるかを表す。(1より大きい産業ほど特化している。)



地域の現状と課題

西部地域は、都心へのアクセスのよさや、大手自動車会社などの多くの工場立地により発展しています。平成8年（1996年）には、県内で最初に首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が開通しました。インターチェンジ周辺などにはさらなる産業集積が進んでおり、今後圏央道の整備が進むにつれ、沿線は新たな産業拠点として発展することが期待されています。

一方、全国的に知名度の高い狭山茶をはじめ、ほうれんそう、さといもなど多彩な農産物が生産されています。飯能などで生産される西川材は優良な木材として広く知られています。また、大都市近郊にありながら、狭山丘陵や加治丘陵などの豊かな緑、入間川流域の清流、三富地域の平地林など貴重な自然環境が数多く残されています。

このほか、入間川七夕まつりや、入間万燈まつり、日高の巾着田曼珠沙華まつりや飯能新緑ツーデーマーチなど多様な祭りやイベントが開催されています。所沢には野球やバスケットボールのプロチームがあり、地域を活気づけています。

今後は、東日本大震災を教訓とした災害に強いまちづくりや、企業誘致などを促進する幹線道路の整備、インターチェンジへのアクセス道路の整備など道路網の充実・強化、浸水被害の軽減、土砂災害の防止が求められています。

また、各地で計画的な市街地整備が進む中、建物が密集したままとなっている地区もあり、快適な都市空間の形成と都市防災機能の向上を図る必要があります。このほか、米軍基地の返還後の跡地利用もまちづくりの課題となっています。

さらに、住民が主体的に地域を守り創造していくことができるように、緑豊かな自然環境の保全・活用の推進、河川浄化、伝統文化や祭りの保全・振興などに取り組むことが求められています。

一方、地域とのつながりが薄い都市型高齢者をはじめ、急速に増加する高齢者が安心してすごせる環境の整備や、安心して子どもを産み育てられる子育て環境の一層の充実が求められています。また、住み慣れた地域において、必要な時に安心して医療を受けられる体制づくりが求められています。



高麗郷建郡1300年を迎える高麗神社(日高市)



曼珠沙華が群生する巾着田(日高市)

地域づくりの方向性

圏央道周辺など交通利便性の高い地域において、周辺の自然や景観、農地・林地との調和に配慮しながら地元市や民間と連携して産業基盤整備を進め、多様な企業の集積を図り地域の活力を高めます。

また、基地跡地については、地域の意向に沿った利用がなされるように支援していきます。

交通渋滞のない円滑で安全な自動車交通の実現に向け、インターチェンジへのアクセス道路や幹線道路を効果的にネットワーク化する道路を整備します。また、歩道の整備や自転車通行帯の設置を進めます。

一方、狭い道路や建物が密集している市街地については、オープンスペースの確保と都市防災機能の向上を図ります。また、防災・治水対策をさらに進めるとともに、自主防災組織やNPO、ボランティアなどとの連携・協働を図ります。さらに、帰宅困難者や災害時要援護者への対策を進めます。

県民、NPO、事業者などとの連携により、自然環境の保全・活用や水辺再生を進めます。また、家庭や企業などにおける再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化を進めます。

県内有数の産業集積を生かして既存の立地企業との連携や交流を進め、産業競争力を強化します。また、大学や短大と協力して産学連携を進めます。さらに、巾着田や高麗神社、飯能河原、狭山湖など多様な地域資源を生かしたエコツーリズムなど、魅力ある観光づくりを支援します。

収益性の高い農業を振興するため、農業基盤整備や新品種の導入、機械化などによる生産拡大を進めるとともに、地元農産物を活用した農産加工品の開発を進めます。

木材生産の低コスト化や県産木材の安定供給体制の整備などにより林業振興を図ります。地球温暖化防止や水源かん養など森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、彩の国みどりの基金などを活用した森林整備を行います。また、森林ボランティア団体や企業などと連携した県民参加の森林づくりを進めます。

一方、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療、介護、予防、住まい、生活支援などの在宅サービスを切れ目なく提供できる体制を整備するとともに、安心して施設サービスが受けられるように特別養護老人ホームなどの整備を支援します。

待機児童解消に向けた保育所の整備を促進するとともに、多様なニーズに応じたきめ細かい保育サービスの提供を支援するなど子育てしやすい環境づくりを進めます。

また、地域の特性を生かした生活習慣病予防対策を推進することにより、健康を保持し、生涯にわたる生活の質の維持・向上を図ります。さらに、必要な時に安心して医療が受けられるように、地域の中核的な医療機関の整備を支援するとともに、地域の小児救急体制の充実を図ります。

こうした取組を通じて、森と水に恵まれた豊かな環境と様々な都市機能が共生し、質の高い快適な生活空間に満ちたまちづくりを進めていきます。



エコツーリズム(干柿づくり体験)(飯能市)



主な取組

I 安心・安全を広げる分野

1 安心して子育てできる環境をつくる

- 保育所、企業内保育所などの整備促進による待機児童対策の推進
- 児童相談所などの相談体制の充実

2 高齢者が安心してすごせる社会をつくる

- 24時間在宅生活を支える介護サービスの普及
- 特別養護老人ホームなどの整備支援

3 誰もが健康に暮らせる社会をつくる

- 地域の実情に応じた健康づくりの取組支援など健康長寿埼玉の推進
- 夜間や休日にも小児救急患者に対応できる体制の確保

4 暮らしの安心・安全を確保する

- 自主防犯活動への支援
- 歩道の整備、自転車通行帯の設置、右折レーンの設置など交差点の改良

5 危機・災害に備える

- 消防の広域化の推進、消防救急無線の広域化・共同化の促進
- 自主防災組織の強化や地域における防災関係機関の連携強化
- 主要交差点における発電装置付き信号機の設置推進
- 防災拠点となる公共施設の耐震化の促進
- 河川改修や調節池の整備（不老川など）
- 土砂災害防止施設の整備や治山事業の実施

II 人づくり・教育を高める分野

1 子どもを鍛え次代を担う人材を育成する

- 知・徳・体の基礎を確実に身に付けさせる「教育に関する3つの達成目標」の推進
- 小・中学校9年間を一貫した教育の推進、次世代のリーダーとして社会で活躍できる力を育むプログラムの実施などによる確かな学力と自立する力の育成
- 「埼玉の子ども70万人体験活動」や道德教育の推進などによる豊かな心の育成
- 学校体育の充実などによる健やかな体の育成

2 誰もが力を発揮しいきいきと活躍する

- キャリアセンター所沢ランチを拠点とした若年者や女性の就業支援
- 子育て期における多様な働き方の定着促進など女性のチャレンジ支援
- 障害者の自立・生活・就労支援

Ⅲ 経済・産業を支える分野

1 埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 経営革新にチャレンジする企業の支援
- 産学官連携や知的財産活用による新製品・新技術の開発支援
- 圏央道沿線地域に加えて圏央道以北地域への企業誘致の推進

2 埼玉の成長を生み出す農林業を振興する

- 優良農地の確保と担い手への利用集積の促進
- 茶、野菜などの生産拡大の支援
- 木材生産の低コスト化や県産木材の安定供給体制の整備

3 埼玉の成長を支える社会基盤をつくる

- インターチェンジへのアクセス道路や企業誘致などを促進する幹線道路の整備（国道407号など）
- 幹線道路の未接続区間の解消（国道299号飯能日高バイパスなど）
- 中山間地域の生活を支える道路の整備
- 駅前顔やにぎわいのあるまちをつくる地域の実情に応じた市街地開発事業の促進

Ⅳ 環境を守り育てる分野

1 みどりと川を再生し自然と共存する

- 身近な緑の保全・創出・活用
- 三富^{さんどめ}地域における緑地や農地の保全・活用
- 森林ボランティア団体や企業などによる県民参加の森林づくりの推進
- 県民と取り組む川の再生の推進（入間川など）
- 下水道、合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備促進

2 エネルギー利用を見直し地球温暖化を防ぐ

- 太陽光発電など再生可能エネルギーやLED照明など省エネ設備の普及・拡大

3 環境負荷の少ない循環型社会を創造する

- 間伐材や家畜排せつ物などのバイオマスの利活用の促進

Ⅴ 暮らしと地域を豊かにする分野

1 埼玉の魅力を創造し発信する

- 伝統芸能などの鑑賞・発表機会の充実
- 誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の提供
- グルメ・アニメ・歴史・産業などの地域資源を活用した多彩な体験型観光づくり



プロバスケットボール選手との交流(所沢市)



2 快適で暮らしやすく魅力あふれるまちをつくる

- ▶ 生活交通を支える路線バスの維持・確保支援
- ▶ まちの価値を高める土地区画整理事業や市街地再開発事業の実施
- ▶ 米軍基地跡地の有効利用

3 一人一人が心豊かに暮らせる地域社会をつくる

- ▶ 地域支え合いの仕組みの普及・拡大



西川材の伐採(飯能市)

主な施設・交通網と基盤整備の状況



利根地域



行田市 久喜市 宮代町
 加須市 蓮田市 白岡町※
 羽生市 幸手市 杉戸町

人口(県人口に占める割合)	659,459人(9.2%)
面積(県面積に占める割合)	473.84km ² (12.5%)
人口密度	1,391.7人/km ²

国勢調査(平成22年)(総務省)

行田市・加須市・羽生市・久喜市・蓮田市・幸手市・宮代町・白岡町・杉戸町

位置・地勢

権現堂の桜堤(幸手市)

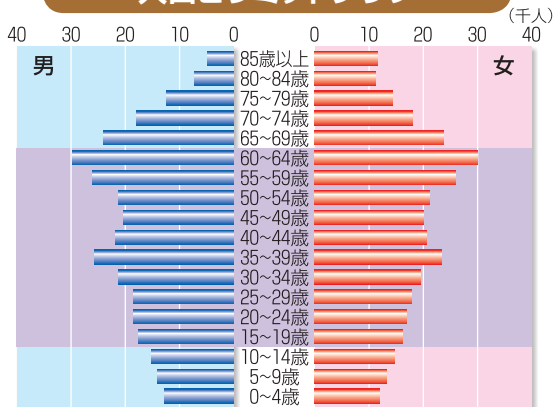
- 関東平野のほぼ中央に当たる県の北東部、東京都心から40~60km圏に位置している。
- 大半は勾配が極めて緩やかな加須低地や中川低地であり、大落古利根川、元荒川、中川などの河川や葛西用水などの農業用水路が広大な水路網を形成している。

※平成24年10月1日から白岡市(予定)

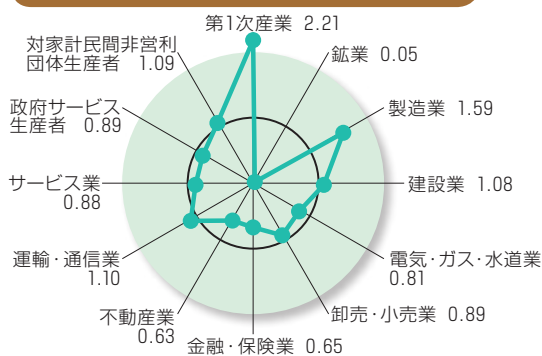
地域のなりたち

- 県名発祥の地といわれる行田の埼玉古墳群をはじめ、古くからの歴史を持つ地域である。
- 江戸時代には、江戸の治水と新田開発を進めるため利根川の東遷が行われ、度重なる水路の開削や閉鎖により今日の河川や水路網の原形が形成された。
- 忍城の城下町として栄えた行田のほか、杉戸、幸手は日光街道の宿場町として、羽生や加須は利根川の水運の要衝として、また蓮田は見沼通船の拠点として発展した。久喜は主要街道を結ぶ物流の拠点として栄えた。
- 古くから豊かな水や平坦な地形、肥沃な土壌を生かした稲作が盛んに行われており、県内有数の穀倉地帯となっている。
- 昭和40年代以降は、東北縦貫自動車道の開通や、宅地や大規模工業団地の造成に伴い、人口の増加や多様な産業の集積が進んだ。

人口ピラミッドグラフ

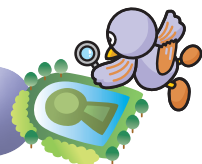


産業別特化係数(全市町村平均比率=1)



埼玉の市町村民経済計算(平成21年度)(埼玉県)

地域の産業構造が県全体の平均に対してどのような特徴があるかを表す。(1より大きい産業ほど特化している。)



地域の現状と課題

利根地域は、都心方面への鉄道や道路の利便性の高さに加え、平成23年（2011年）には首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の白岡菖蒲インターチェンジから東北縦貫自動車道に接続されました。圏央道沿線では複数の産業団地の整備が進んでおり、今後、関越自動車道などとの接続に伴い、広域的な産業・物流拠点として大きく飛躍する可能性が高まっています。

一方、豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた県内有数の穀倉地帯であり、稲作を主体に麦、きゅうり、トマトなどの野菜、梨などの果樹、花き、養魚などの生産が盛んに行われています。

羽生の藍染め、加須の鯉のぼりなどの伝統産業も継承されており、手打ちうどんや地酒などの産地としても知られています。また、行田の埼玉古墳群や忍城址、蓮田の黒浜貝塚などの史跡、加須の浮野の里や渡良瀬遊水地、幸手の権現堂公園などの観光名所、久喜の提燈祭りや杉戸の古利根川流灯まつりなどの個性豊かな祭りといった豊富な地域資源を有しています。

今後は、東日本大震災を教訓とした災害に強いまちづくりを進めるとともに、圏央道の整備・開通に伴い、緑豊かな自然環境と調和した新たな産業・物流拠点を形成し、地域の活力を高めていくことが必要です。また、企業誘致などを推進する幹線道路やインターチェンジへのアクセス道路の整備をはじめとする道路網の一層の充実・強化が求められています。

この地域は大半が河川や水路に囲まれた低地であり、昭和22年（1947年）に発生したカスリーン台風では利根川などの堤防が決壊し、大きな被害が生じました。これ以降も、台風などによる浸水被害が発生しており、治水対策の取組が引き続き必要です。

一方、この地域には拠点となる医療機関が不足しているため、必要な時に安心して医療を受けることができる体制づくりを進める必要があります。

また、急速に進む高齢化への対応とともに、安心して子どもを産み育てられる子育て環境の一層の充実が求められています。



忍城址(行田市)



土師祭に登場した「らき☆すた神輿」(久喜市)

地域づくりの方向性

圏央道周辺など交通利便性の高い地域において、周辺の自然や景観、農地との調和に配慮しながら、地元市町や民間と連携して産業基盤整備を進め、多様な企業の集積を図り、地域の活力を高めます。

また、円滑で安全な自動車交通の実現に向け、バイパスなどの主要幹線道路やインターチェンジへのアクセス道路を整備します。さらに、歩道の整備や自転車通行帯の設置を進めます。

利根川や江戸川の周辺地域の浸水被害の軽減に向けた総合的な治水対策や防災対策を進めるとともに自主防災組織やNPO、ボランティアなどとの連携・協働を図ります。また、帰宅困難者や災害時要援護者への対策を進めます。

地域の特性を生かした公園整備などにより、ゆとりを実感できる空間を形成するとともに、潤いのある水辺空間の保全・活用を進めます。また、家庭や企業などにおける再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化を進めます。

既存の立地企業と新規立地企業との連携・交流により産業競争力を強化するとともに、地域内の大学などと連携しながら産業の担い手を育成します。また、埼玉古墳群や忍城址などの史跡、アニメの舞台となった鷲宮神社などの豊富な地域資源を生かし、地域独自の魅力を内外に強く発信します。

水田を中心に展開される多様な農業の発展を図るため、農業基盤整備や農地の利用集積、機械化などによる生産の効率化を図り、収益性の高い農業を振興します。

一方、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療、介護、予防、住まい、生活支援などの在宅サービスを切れ目なく提供できる体制を整備するとともに、安心して施設サービスが受けられるように特別養護老人ホームなどの整備を支援します。

また、多様なニーズに応じたきめ細かい保育サービスの提供を支援するなど子育てしやすい環境づくりを進めます。

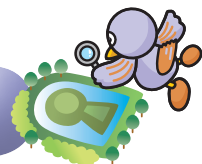
地域の特性を生かした生活習慣病予防対策を推進することにより、健康を保持し、生涯にわたる生活の質の維持・向上を図ります。また、必要な時に安心して医療が受けられるように、

地域の中核的な医療機関の整備支援や小児救急体制の充実を図るとともに、ITを活用した地域医療連携システムの構築を進めます。

こうした取組を通じて、本県を代表する穀倉地帯の美しい田園景観と多様な産業活力を兼ね備えた魅力あるまちづくりを進めていきます。



ラムサール条約に登録された渡良瀬遊水地(加須市)



主な取組

I 安心・安全を広げる分野

1 安心して子育てできる環境をつくる

- 地域の需要に応じた保育所の整備支援
- 児童相談所などの相談体制の充実

2 高齢者が安心してすごせる社会をつくる

- 24時間在宅生活を支える介護サービスの普及
- 特別養護老人ホームなどの整備支援

3 誰もが健康に暮らせる社会をつくる

- 地域の実情に応じた健康づくりの取組支援など健康長寿埼玉の推進
- 身近な医療機関と中核的な医療機関の連携支援
- 夜間や休日にも小児救急患者に対応できる体制の確保

4 暮らしの安心・安全を確保する

- 自主防犯活動への支援
- 歩道の整備、自転車通行帯の設置、右折レーンの設置など交差点の改良

5 危機・災害に備える

- 消防の広域化の推進、消防救急無線の広域化・共同化の促進
- 自主防災組織の強化や地域における防災関係機関の連携強化
- 主要交差点における発電装置付き信号機の設置推進
- 防災拠点となる公共施設の耐震化の促進
- 利根川、江戸川の堤防強化の促進、河川改修や調節池の整備（中川など）

II 人づくり・教育を高める分野

1 子どもを鍛え次代を担う人材を育成する

- 知・徳・体の基礎を確実に身に付けさせる「教育に関する3つの達成目標」の推進
- 小・中学校9年間を一貫した教育の推進、次世代のリーダーとして社会で活躍できる力を育むプログラムの実施などによる確かな学力と自立する力の育成
- 「埼玉の子ども70万人体験活動」や道德教育の推進などによる豊かな心の育成
- 学校体育の充実などによる健やかな体の育成

2 誰もが力を発揮しいきいきと活躍する

- 子育て期における多様な働き方の定着促進など女性のチャレンジ支援
- 障害者の自立・生活・就労支援

利根地域

行田市・加須市・羽生市・久喜市・蓮田市・幸手市・宮代町・白岡町・杉戸町

Ⅲ 経済・産業を支える分野

1 埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 経営革新にチャレンジする企業の支援
- 圏央道沿線地域に加えて圏央道以北地域への企業誘致の推進
- 大学と連携した産業人材の育成

2 埼玉の成長を生み出す農林業を振興する

- 優良農地の確保と担い手への利用集積の促進、農業生産を支える基盤整備の推進
- 米、野菜、果樹などの生産拡大の支援



田んぼアートに取り組む小学生(加須市)

3 埼玉の成長を支える社会基盤をつくる

- 圏央道の整備促進
- インターチェンジへのアクセス道路や企業誘致などを促進する幹線道路の整備
- 幹線道路の未接続区間の解消(国道125号栗橋大利根バイパスなど)や鉄道と道路の立体交差化
- 駅前の顔やにぎわいのあるまちをつくる地域の実情に応じた市街地開発事業の促進
- 豊かな田園環境と調和した産業基盤の整備

Ⅳ 環境を守り育てる分野

1 みどりと川を再生し自然と共存する

- 身近な緑の保全・創出・活用
- 県民と取り組む川の再生の推進(松原落排水路・会の川など)
- 下水道、合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備促進
- 非かんがい期における農業用水路などへの通水の実施
- 下水道高度処理の推進(古利根川水循環センター)



緑のトラスト保全地に指定されている黒浜沼(蓮田市)

2 エネルギー利用を見直し地球温暖化を防ぐ

- 太陽光発電など再生可能エネルギーやLED照明など省エネ設備の普及・拡大

3 環境負荷の少ない循環型社会を創造する

- 浄水場における浄水発生土の資源化の推進(行田浄水場)
- 下水処理場における下水汚泥の資源化の推進(古利根川水循環センター)

Ⅴ 暮らしと地域を豊かにする分野

1 埼玉の魅力を創造し発信する

- 伝統芸能などの鑑賞・発表機会の充実
- 誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の提供
- グルメ・アニメ・歴史・産業などの地域資源を活用した多彩な体験型観光づくり



2 快適で暮らしやすく魅力あふれるまちをつくる

- ▶ ITを活用した地域医療連携システムの構築
- ▶ まちの価値を高める土地区画整理事業や市街地再開発事業の実施
- ▶ 生活に潤いと安らぎを与える
都市公園の整備（羽生水郷公園園など）

3 一人一人が心豊かに暮らせる地域社会をつくる

- ▶ 地域支え合いの仕組みの普及・拡大



圏央道・白岡菖蒲インターチェンジ(久喜市、白岡町)

主な施設・交通網と基盤整備の状況



北部地域



熊谷市
本庄市
深谷市
美里町

神川町
上里町
寄居町

人口(県人口に占める割合)	522,534人(7.3%)
面積(県面積に占める割合)	562.28km ² (14.8%)※
人口密度	929.3人/km ²

国勢調査(平成22年)(総務省)

熊谷市・本庄市・深谷市・美里町・神川町・上里町・寄居町

位置・地勢

- 県の北西部、東京都心から50~80km圏に位置している。
- 西端の上武山地から児玉・松久の丘陵地帯、中央に広がる本庄・櫛引・江南の台地を経て、東端の妻沼低地へと続く起伏に富んだ地形である。

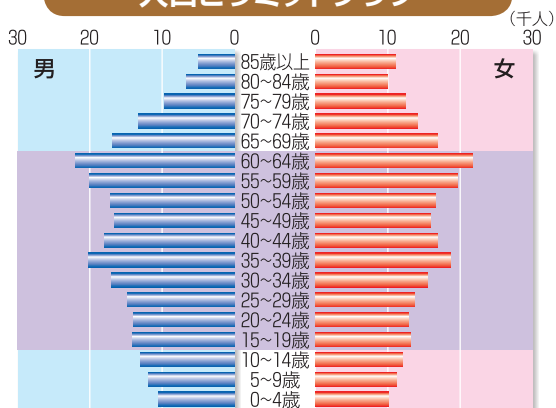
国宝に指定された妻沼聖天山・歓喜院聖天堂(熊谷市)

※平成22年3月1日に深谷市と群馬県太田市が境界変更を行ったことにより、面積が0.83km²増加している。

地域のなりたち

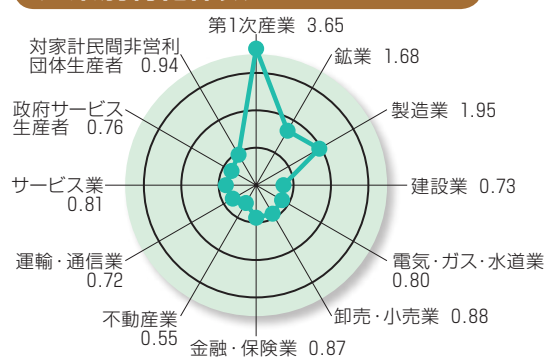
- 本庄の塙保己一、深谷の渋沢栄一、熊谷の荻野吟子など著名な偉人を輩出した地としても知られる。
- 中山道の宿場町であった熊谷、深谷、本庄、秩父往還沿いの寄居などは多くの人が行きかい、商業を中心に発展した。
- 明治以降、鉄道が開通すると交通の要衝としての重要性がさらに高まり、製造業などの工業の集積も進んだ。
- 昭和30年代以降、熊谷、本庄、深谷に大規模な工業団地が相次いで造成され、関越自動車道にもアクセスしやすいことから、電機、機械、化学、食料品など多様な産業の集積が進んだ。

人口ピラミッドグラフ



国勢調査(平成22年)(総務省)

産業別特化係数(全市町村平均比率=1)



埼玉の市町村民経済計算(平成21年度)(埼玉県)

地域の産業構造が県全体の平均に対してどのような特徴があるかを表す。(1より大きい産業ほど特化している。)



地域の現状と課題

北部地域では、昭和57年（1982年）に上越新幹線、平成9年（1997年）には長野新幹線が開通し、平成16年（2004年）の上越新幹線本庄早稲田駅の開業により利便性はますます高まっています。本庄早稲田駅周辺では土地区画整理事業が実施され、本庄地方拠点都市地域の中核として研究機関などが立地し魅力あるまちづくりが進められています。

また、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）や北関東自動車道の開通、関越自動車道上里サービスエリアと寄居パーキングエリアのスマートインターチェンジの整備が進められることにより、企業立地のポテンシャルがより一層高まっています。特に、環境負荷の軽減に寄与する産業施設を集約する彩の国資源循環工場の拡張や、平成25年（2013年）に稼働予定の大手自動車メーカーの立地に伴う自動車関連産業の集積により、地域経済の活性化や新たな雇用の創出が見込まれています。

利根川と荒川に挟まれた平坦で肥沃な土地は、県内有数の農業地帯となっています。全国トップクラスの生産量を誇るねぎやきゅうりなどの野菜、ユリやチューリップなどの切り花、梨やブルーベリーなどの果樹、畜産など多彩な農畜産物の生産が盛んに行われています。また、全国有数の小麦の産地であり、米麦二毛作が行われています。

さらに、寄居の鉢形城跡や建造物としては県内初の国宝に指定されることとなった妻沼聖天山をはじめとする史跡・文化財、神川の三波石峡や城峯公園さんばせききょうなどの自然景観、熊谷スポーツ文化公園などのスポーツ・レクリエーション施設、熊谷うちわ祭や寄居玉淀水天宮祭の個性豊かな祭りなど、豊富な地域資源を有しています。

今後は、東日本大震災を教訓とした災害に強いまちづくりを進めるとともに、道路網の整備、浸水被害の軽減や土砂災害の防止、河川浄化の取組を引き続き行っていく必要があります。

また、新たに進出する工場の円滑な稼働を支える産業基盤に合わせて、企業誘致を促進する幹線道路を整備し、関連企業の誘致を積極的に進め、地域経済の振興を図ることが課題となっています。

さらに、農業の担い手の確保や農地の利用集積の促進などにより、農業の振興に積極的に取り組んでいく必要があります。

一方、急速に増加する高齢者が安心してすごせる環境の整備や、安心して子どもを生き育てられる子育て環境の一層の充実が求められています。また、住み慣れた地域において、必要な時に安心して医療を受けられる体制づくりが求められています。



熊谷スポーツ文化公園



深谷グリーンパーク

地域づくりの方向性

緑豊かな環境と調和した産業基盤の整備を行い、環境への負荷の少ない活力にあふれるまちづくりを進めます。円滑で安全な自動車交通の実現に向け、バイパスなどの主要幹線道路やインターチェンジへのアクセス道路を整備します。また、歩道の整備や自転車通行帯の設置を進めます。

防災・治水対策をさらに進めるとともに、自主防災組織やNPO、ボランティアなどとの連携・協働を図ります。また、帰宅困難者や災害時要援護者への対策を進めます。

1市3町で進める「本庄地域定住自立圏共生ビジョン」の推進を支援し、広域連携による医療、福祉、産業振興、地域公共交通などの充実を図ります。

ムサシトミヨの保護活動など県民と取り組む川の再生や環境に配慮した河川の整備、身近な緑の保全を進めるとともに、これまで育まれてきた多彩で豊かな地域の歴史や文化、祭りなど豊富な地域資源を生かし、地域の魅力を県内外に発信します。また、家庭や企業などにおける再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化を進めます。

産業競争力の強化を図るため、自動車関連産業や食品関連産業など地域の特色や強みを生かした企業誘致を推進します。併せて既存の企業と新規立地企業との連携・交流を進めるほか、高付加価値の創出を目指すイノベーション支援や大学、産業技術研究機関を活用した技術支援を行います。また、次世代のものづくりを担う人材の育成に取り組みます。



特産のねぎ(深谷市)

米麦、野菜、花・植木、果樹、畜産などの産地の競争力をより一層高めていくため、意欲ある多様な担い手を確保・育成するとともに、優良農地の保全と農業生産基盤の整備、農地の利用集積、新品種の導入、機械化などによる生産拡大を進めます。また、農業の6次産業化や農商工連携も図りながら収益性の高い農業を振興します。

木材生産の低コスト化や県産木材の安定供給体制の整備などにより林業振興を図ります。地球温暖化防止や水源かん養など森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、彩の国みどりの基金などを活用した森林整備を行います。また、森林ボランティア団体や企業などと連携した県民参加の森林づくりを進めます。

一方、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療、介護、予防、住まい、生活支援などの在宅サービスを切れ目なく提供できる体制を整備するとともに、安心して施設サービスが受けられるように特別養護老人ホームなどの整備を支援します。

多様なニーズに応じたきめ細かい保育サービスの提供を支援するなど子育てしやすい環境づくりを進めます。

また、地域の特性を生かした生活習慣病予防対策を推進することにより、健康を保持し、生涯にわたる生活の質の維持・向上を図ります。さらに、必要な時に安心して医療が受けられるように、地域の中核的な医療機関の整備を支援するとともに、地域の小児救急体制の充実を図ります。

こうした取組を通じて、自然環境や歴史資源に恵まれたゆとりある空間の中で、競争力のある多様な産業と良好な居住環境が共存する魅力あふれるまちづくりを進めていきます。



主な取組

I 安心・安全を広げる分野

1 安心して子育てできる環境をつくる

- 地域の需要に応じた保育所の整備支援
- 児童相談所などの相談体制の充実

2 高齢者が安心してすごせる社会をつくる

- 24時間在宅生活を支える介護サービスの普及
- 特別養護老人ホームなどの整備支援

3 誰もが健康に暮らせる社会をつくる

- 地域の実情に応じた健康づくりの取組支援など健康長寿埼玉の推進
- 夜間や休日にも小児救急患者に対応できる体制の確保
- 循環器・呼吸器病センターにおける緩和ケア医療体制の整備

4 暮らしの安心・安全を確保する

- 自主防犯活動への支援
- 歩道の整備、自転車通行帯の設置、右折レーンの設置など交差点の改良

5 危機・災害に備える

- 消防の広域化の推進、消防救急無線の広域化・共同化の促進
- 自主防災組織の強化や地域における防災関係機関の連携強化
- 主要交差点における発電装置付き信号機の設置推進
- 防災拠点となる公共施設の耐震化の促進
- 河川改修の推進（和田吉野川など）
- 土砂災害防止施設の整備や治山事業の実施



整備された自転車道(熊谷市)

II 人づくり・教育を高める分野

1 子どもを鍛え次代を担う人材を育成する

- 知・徳・体の基礎を確実に身に付けさせる「教育に関する3つの達成目標」の推進
- 小・中学校9年間を一貫した教育の推進、次世代のリーダーとして社会で活躍できる力を育むプログラムの実施などによる確かな学力と自立する力の育成
- 「埼玉の子ども70万人体験活動」や道德教育の推進などによる豊かな心の育成
- 学校体育の充実などによる健やかな体の育成

2 誰もが力を発揮いきいきと活躍する

- 子育て期における多様な働き方の定着促進など女性のチャレンジ支援
- 障害者の自立・生活・就労支援

Ⅲ 経済・産業を支える分野

1 埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- ▶ 経営革新にチャレンジする企業の支援
- ▶ 産学官連携や知的財産活用による新製品・新技術の開発支援
- ▶ 食品産業、自動車関連産業、流通加工業など埼玉の特性を生かした産業の誘致
- ▶ 圏央道沿線地域に加えて圏央道以北地域への企業誘致の推進

2 埼玉の成長を生み出す農林業を振興する

- ▶ 優良農地の確保と担い手への利用集積の促進、農業生産を支える基盤整備の推進
- ▶ 野菜、果樹、花きなどの生産拡大の支援
- ▶ 木材生産の低コスト化や県産木材の安定供給体制の整備

3 埼玉の成長を支える社会基盤をつくる

- ▶ インターチェンジへのアクセス道路や企業誘致などを促進する幹線道路の整備
- ▶ 中山間地域の生活を支える道路の整備
- ▶ 駅前の顔やにぎわいのあるまちをつくる地域の実情に応じた市街地開発事業の促進
- ▶ 本庄地方拠点都市地域の整備支援
- ▶ 北部地域振興交流拠点の検討・推進



本庄早稻田駅周辺の整備(本庄市)

Ⅳ 環境を守り育てる分野

1 みどりと川を再生し自然と共存する

- ▶ 身近な緑の保全・創出・活用
- ▶ 森林ボランティア団体や企業などによる県民参加の森林づくりの推進
- ▶ 県民と取り組む川の再生の推進(元小山川など)
- ▶ 下水道、合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備促進

2 エネルギー利用を見直し地球温暖化を防ぐ

- ▶ 電気自動車などの次世代自動車普及モデル事業の推進
- ▶ エコタウンプロジェクトの推進
- ▶ 太陽光発電など再生可能エネルギーやLED照明など省エネ設備の普及・拡大

3 環境負荷の少ない循環型社会を創造する

- ▶ 間伐材や家畜排せつ物などのバイオマスの利活用の促進
- ▶ 彩の国資源循環工場第2期事業の実施



彩の国資源循環工場第2期事業完成後のイメージ(寄居町)



V 暮らしと地域を豊かにする分野

1 埼玉の魅力を創造し発信する

- 文化資源を活用した観光の振興
- 伝統芸能などの鑑賞・発表機会の充実
- 誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の提供
- グルメ・歴史・産業などの地域資源を活用した多彩な体験型観光づくり

2 快適で暮らしやすく魅力あふれるまちをつくる

- 生活交通を支える路線バスの維持・確保支援
- まちの価値を高める土地区画整理事業の実施

3 一人一人が心豊かに暮らせる地域社会をつくる

- 地域支え合いの仕組みの普及・拡大



熊谷うちわ祭

主な施設・交通網と基盤整備の状況



秩父地域



秩父市
横瀬町
皆野町

長瀬町
小鹿野町

秩父市・横瀬町・皆野町・長瀬町・小鹿野町

人口(県人口に占める割合)	108,226人(1.5%)
面積(県面積に占める割合)	892.50km ² (23.5%)
人口密度	121.3人/km ²

国勢調査(平成22年)(総務省)



秩父夜祭

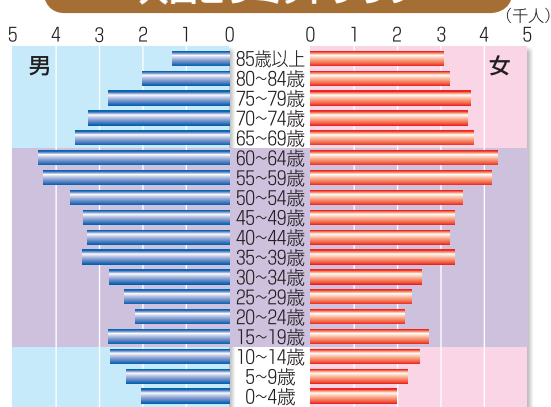
位置・地勢

- 県の北西部、東京都心から70~100km圏に位置している。
- 甲武信ヶ岳、両神山などの山々を頂く奥秩父・上武・外秩父の山地に囲まれた中央に秩父盆地が位置している。
- 標高2,000m前後の高山が連なり、地域の8割を森林が占めるなど緑豊かな自然環境を形成している。荒川の水源を擁するとともに長瀬に代表される優れた景観にも恵まれている。

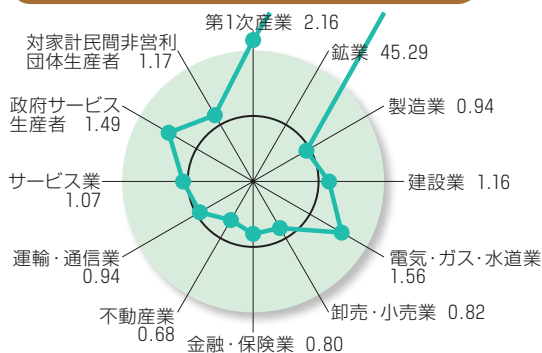
地域のなりたち

- わが国最古の流通貨幣といわれる「和同開珎」ゆかりの地として知られるなど、古い歴史を持っている。
- 早くから養蚕、絹織物など多彩な生産が行われ、物資の集散地として発展し独自の習慣や風俗も形成された。
- 江戸時代には秩父札所巡礼が盛んになり、信仰と観光を兼ねて訪れる白装束の人々にぎわうようになった。札所めぐりなど寺社や文化財の見学を訪れる人は、今日では年間約200万人ともいわれている。
- 明治以降、交通網の整備に伴い地域内外との交流も活発になり、セメント産業をはじめ、繊維産業、林業などが盛んになった。近年は産業構造の変化に伴い電子部品や精密機械器具製造などのものづくり産業が中心となっている。
- 昭和50年代以降人口減少が続いており、老年人口比率が県内で最も高い地域となっている。また、少子化が深刻化していく中で、就学・就労期の若年人口の流出も見受けられる。
- 高齢化や過疎化が進行する中で、地域住民同士が支え合う全国に先駆けた取組が進んでいる。

人口ピラミッドグラフ



産業別特化係数(全市町村平均比率=1)



地域の現状と課題



秩父地域は、人口減少や高齢化が進んでいますが、観光振興や全国に先駆けた「地域
支え合いの仕組み」などの取組が活発に行われています。

平成21年（2009年）、秩父市を中心とした1市4町による定住自立圏が形成され、平成
22年（2010年）に定住自立圏共生ビジョンが策定されました。ビジョンには医療、観光、
産業などのほか、様々な分野の協定が盛り込まれており、地域住民の福祉向上と地域振興
を図る多様な取組が行われています。

国道140号では、雁坂トンネルや皆野寄居バイパスが開通するとともに、平成22年
（2010年）には新皆野橋が開通するなど、幹線道路の整備が着実に進んでいます。

また、緑豊かで雄大な自然環境をはじめ多彩な観光資源に恵まれていることから、多く
の観光客が訪れる県内随一の観光地となっています。羊山公園の芝桜や秋の紅葉、観光農
園やハイキングなどを楽しむ観光客が訪れています。近年では、アニメとの連携やサイク
リング客の誘致など新たな観光振興が進んでいます。平成23年（2011年）には長瀬の宝
登山神社がミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで一つ星を獲得し、秩父地域が日本ジオ
パークに認定されるなど、国内外から注目が集まっています。一方、観光シーズンの交通渋
滞の緩和や外国人観光客への対応が求められています。

観光振興や地域経済の活性化を図る上で重要な役割を果たす広域道路網の整備におい
ては、交通アクセスの向上に加え、環境との調和や良好な景観の確保などにも十分配慮す
ることが求められています。また、土砂災害の防止など、東日本大震災を教訓とした災害に
強いまちづくりを進める必要があります。

一方、近年秩父山地に生息するサル、シカ、イノシシなどの野生動物の行動範囲が拡大す
る傾向にあり、引き続き農林業への被害を防止する対策が必要です。

人口が減少し、高齢化が進行する中で、誰もが健康でいきいきと暮らせる環境の整備や、
地域医療体制の整備などを進めることが求められています。また、住み慣れた地域におい
て、必要な時に安心して医療を受けられる体制づくりが求められています。



長瀬の岩畳



宝登山神社(長瀬町)

地域づくりの方向性

地域内外との交流の一層の活性化を図るため、円滑で安全な自動車交通を目指し、地域経済や生活を支える幹線道路を整備します。また、歩道の整備や自転車通行帯の設置を進めます。

どこに住んでいても不便さや不安を感じることなく快適に暮らすことができるように、情報通信施設の整備や公共交通網の維持を支援するとともに、土砂災害防止対策を進めます。また、防災・治水対策をさらに進めるとともに、自主防災組織やNPO、ボランティアなどとの連携・協働を図ります。さらに、帰宅困難者や災害時要援護者への対策を進めます。

1市4町で進める「ちちぶ定住自立圏構想」の推進を支援し、広域連携による医療、福祉、情報通信基盤、教育、産業振興、環境、地域公共交通などの充実を図ります。

経営の向上を目指す中小企業をサポートし、産業競争力を強化します。また、家庭や企業などにおける再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化を進めます。

回遊性のある広域観光ルートの開発のほか、いちごやぶどう、ブルーベリーなどによる観光農業の振興、おっきりこみやみそポテトなどの郷土料理の提供、そば打ちや秩父銘仙などの体験施設の活用を進めます。

また、アニメやサイクリングとの連携などにより新たな観光資源の発掘を進めます。羊山公園の芝桜、長瀬の岩畳や宝登山神社、地域の様々な祭りや地質学的資源など魅力ある地域情報を国内外に積極的に発信し、多様な主体と連携しながら、秩父路（国道140号）を軸とした魅力ある観光地づくりを支援します。

さらに、まちなかのにぎわい創出への取組や、こんにゃくやそばなどの地元農産物を活用した農産加工品の開発、秩父屋台ばやしや小鹿野歌舞伎などの郷土芸能の振興や後継者育成の取組を支援します。

木材生産の低コスト化や県産木材の安定供給体制の整備などにより林業振興を図ります。地球温暖化防止や水源かん養など森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、彩の国みどりの基金などを活用した森林整備を行います。また、森林ボランティア団体や企業などと連携した県民参加の森林づくりを進めます。

さらに、野生動物による農林業への被害をなくすため、保護と管理の観点から適切な被害防止対策の推進を支援します。

一方、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療、介護、予防、住まい、生活支援などの在宅サービスを切れ目なく提供できる体制を整備するとともに、安心して施設サービスが受けられるように特別養護老人ホームなどの整備を支援します。

多様なニーズに応じたきめ細かい保育サービスの提供を支援するなど、子育てしやすい環境づくりを進めます。

また、徹底した保健指導や地域の実情に応じた健康づくりの取組支援などにより、健康でいきいきと暮らせる生活の維持・向上を図ります。さらに、必要な時に安心して医療が受けられるように、地域の中核的な医療機関を支援します。

こうした取組を通じて、雄大な自然環境と独自の伝統文化が醸し出す地域の魅力を高めながら、地域内外との交流の中で新たなふれあいやビジネスのチャンスが生まれるまちづくりを進めます。



主な取組

I 安心・安全を広げる分野

1 安心して子育てできる環境をつくる

- 地域の需要に応じた保育所の整備支援
- 児童相談所などの相談体制の充実

2 高齢者が安心してすごせる社会をつくる

- 24時間在宅生活を支える介護サービスの普及
- 特別養護老人ホームなどの整備支援

3 誰もが健康に暮らせる社会をつくる

- 地域の実情に応じた健康づくりの取組支援など健康長寿埼玉の推進

4 暮らしの安心・安全を確保する

- 自主防犯活動への支援
- 歩道の整備、自転車通行帯の設置、右折レーンの設置など交差点の改良

5 危機・災害に備える

- 消防の広域化の推進、消防救急無線の広域化・共同化の促進
- 自主防災組織の強化や地域における防災関係機関の連携強化
- 主要交差点における発電装置付き信号機の設置推進
- 防災拠点となる公共施設の耐震化の促進
- 土砂災害防止施設の整備や治山事業の実施



介護予防に取り組む高齢者(小鹿野町)

II 人づくり・教育を高める分野

1 子どもを鍛え次代を担う人材を育成する

- 知・徳・体の基礎を確実に身に付けさせる「教育に関する3つの達成目標」の推進
- 小・中学校9年間を一貫した教育の推進、次世代のリーダーとして社会で活躍できる力を育むプログラムの実施などによる確かな学力と自立する力の育成
- 「埼玉の子ども70万人体験活動」や道德教育の推進などによる豊かな心の育成
- 学校体育の充実などによる健やかな体の育成

2 誰もが力を発揮いきいきと活躍する

- 子育て期における多様な働き方の定着促進など女性のチャレンジ支援
- 障害者の自立・生活・就労支援



小鹿野こども歌舞伎(小鹿野町)

Ⅲ 経済・産業を支える分野

1 埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 経営革新にチャレンジする企業の支援
- 圏央道沿線地域に加えて圏央道以北地域への企業誘致の推進

2 埼玉の成長を生み出す農林業を振興する

- 農業の6次産業化や農商工連携の促進
- 木材生産の低コスト化や県産木材の安定供給体制の整備

3 埼玉の成長を支える社会基盤をつくる

- 観光や企業誘致などを促進する幹線道路の整備（国道140号皆野秩父バイパスなど）
- 幹線道路の未接続区間の解消（国道140号皆野秩父バイパスなど）
- 中山間地域の生活を支える道路の整備



新たに開通した新皆野橋

Ⅳ 環境を守り育てる分野

1 みどりと川を再生し自然と共存する

- 間伐や伐採跡地への植栽の実施、針広混交林化や広葉樹林化の推進
- 水源地域など奥地の森林整備の推進
- 森林ボランティア団体や企業などによる県民参加の森林づくりの推進
- 県民と取り組む川の再生の推進（横瀬川など）
- 下水道、合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備促進

2 エネルギー利用を見直し地球温暖化を防ぐ

- 電気自動車などの次世代自動車普及モデル事業の推進
- エコタウンプロジェクトの推進
- 太陽光発電など再生可能エネルギーやLED照明など省エネ設備の普及・拡大

3 環境負荷の少ない循環型社会を創造する

- 間伐材や家畜排せつ物などのバイオマスの利活用の促進

Ⅴ 暮らしと地域を豊かにする分野

1 埼玉の魅力を創造し発信する

- 伝統芸能などの鑑賞・発表機会の充実
- 誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の提供
- グルメ・アニメ・歴史・産業などの地域資源を活用した多彩な体験型観光づくり
- 多様な機関・団体と連携した観光客の誘致や回遊の促進
- 農産物の加工体験施設や観光農園のPRなどグリーンツーリズムの支援



2 快適で暮らしやすく魅力あふれるまちをつくる

- 地域鉄道の安全性向上を目指す設備整備への支援
- 生活交通を支える路線バスの維持・確保支援
- 地域ぐるみの総合的な鳥獣被害対策の推進
- 中山間地域における集落協定に基づく農業生産活動の支援

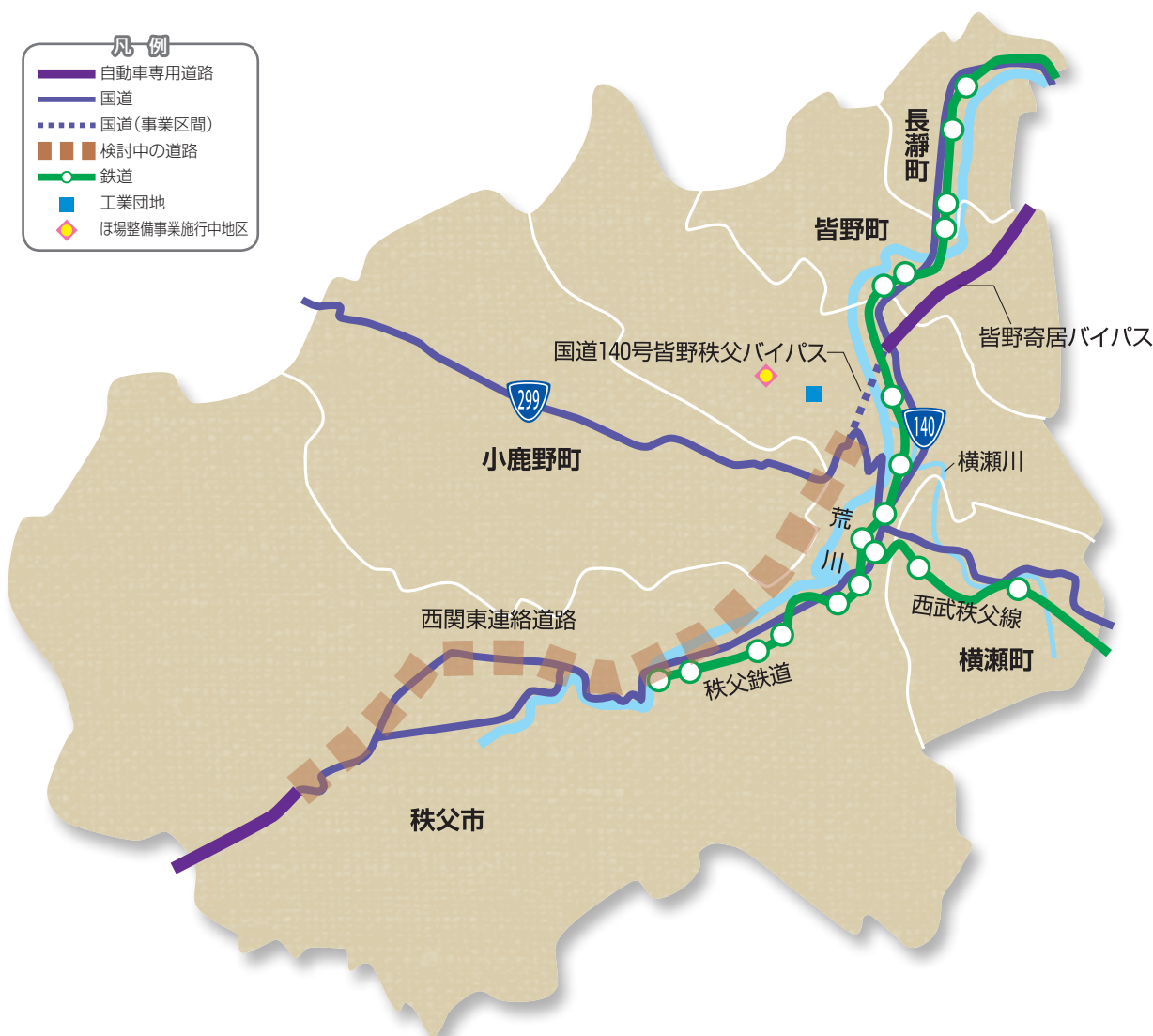
3 一人一人が心豊かに暮らせる地域社会をつくる

- 地域支え合いの仕組みの普及・拡大



美しい農山村(秩父市)

主な施設・交通網と基盤整備の状況



今後の地域づくりについて

1 地域の自主性・自立性の向上

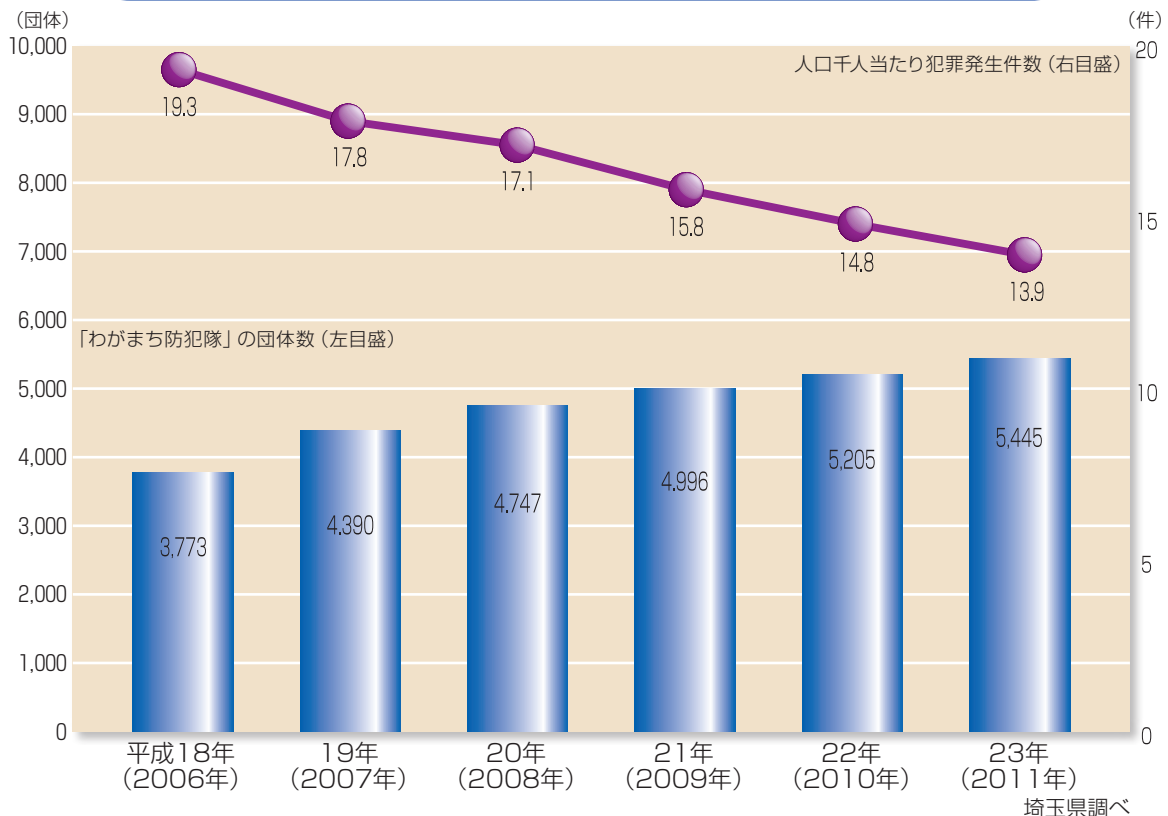
人口減少・少子高齢化や社会の成熟化が進むわが国では、もはやこれまでのような画一的な中央集権システムで多様な住民ニーズに対応していくことは困難となっています。国が全国画一的なモデルを示し、規制や補助金で地方の政策運営を縛る時代は終わりを告げています。

これからは「地域のことは地域で決める」という考えのもと、各地域が自ら創意工夫して個性を生かした政策を立案し、多様性に富んだ優れた政策を展開することにより、わが国全体の活力を高めていくことが必要です。

このため、本県では国からの事務・権限移譲など地方の自立性を高める改革に率先して取り組むとともに、特区制度の活用などによる大胆な独自政策を積極的に展開することなどにより、「ニア・イズ・ベター」の立証となる成功モデルを埼玉からつくり出し、全国へ発信していきます。こうした成功モデルを積み上げていくことで地方への本格的な事務・権限移譲に結びつけ、地域の自主性・自立性の向上を図っていきます。

埼玉県の成功モデルの例

～自主防犯団体「わがまち防犯隊」の団体数と犯罪発生件数（人口千人当たり）の推移～



2 市町村の活力を生かした地域づくり

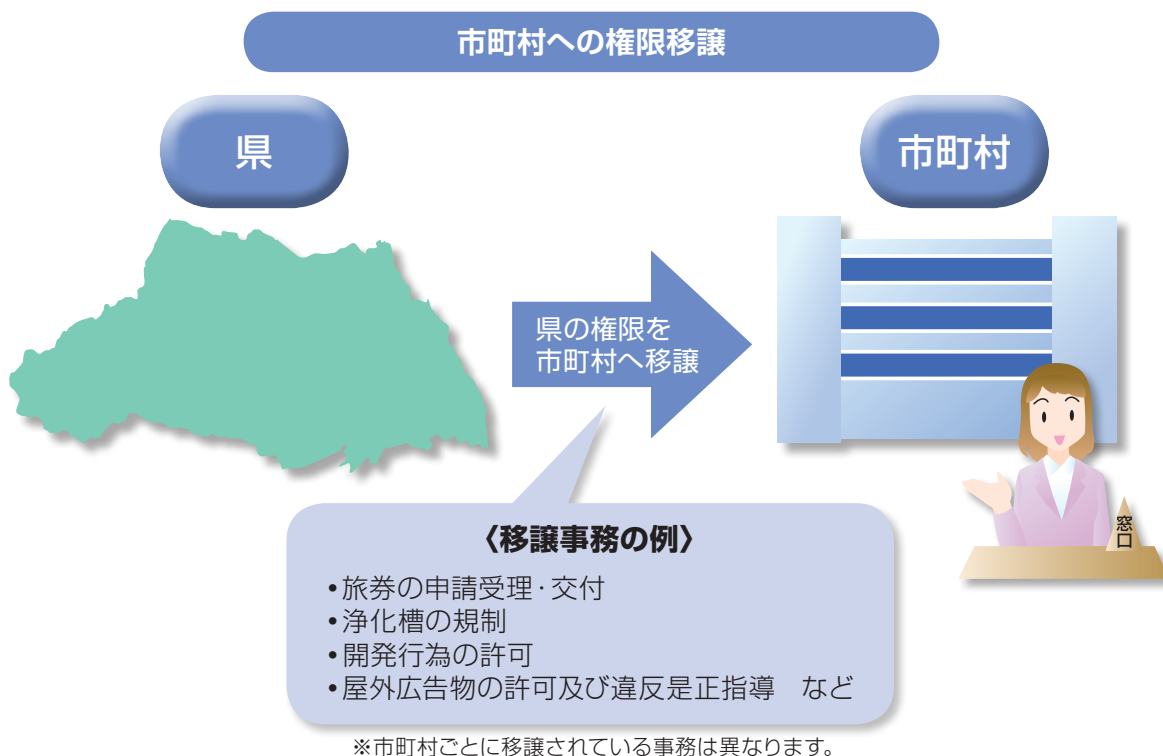
交通網の発達に伴う生活圏の拡大や情報化社会の進展など社会情勢が大きく変化する中において、行政サービスへの住民ニーズは高度化・多様化してきました。一方、市町村の財政状況は今後一層厳しさを増すことが予想され、将来にわたって住民サービスの維持・向上を図っていくためには、市町村の行財政基盤を強化していく必要がありました。

このような背景のもと、全国的に「平成の大合併」が進み、本県においても、92あった市町村が63市町村に再編されました（平成23年（2011年）10月末現在）。

個性豊かで活気に満ちた地域をつくるためには、県と市町村が適切に役割分担し力を合わせていくことが大切です。特に住民に最も身近な自治体である市町村が住民ニーズに合った施策を幅広い分野で積極的に展開できるようにすることが重要です。

本県では、早い時期から一貫して県から市町村への権限移譲を推進してきました。権限移譲により、県民が身近な市町村で申請や手続きが可能となることで利便性が向上するとともに、移譲を受けた市町村が地域の实情に即した行政を総合的に展開するなど、移譲による効果を大いに発揮してきました。

今後一層、市町村への権限移譲を推進するとともに、地域の個性を生かした取組を意欲的に行う市町村を積極的に支援するなど、市町村と共に地域の特徴や魅力を生かした地域づくりを推進していきます。



安心・成長
自立・自尊の
埼玉へ



埼玉県のマスコット
コバトン

埼玉県5か年計画(平成24年度~28年度)

地域別版

編集発行 /  埼玉県 <http://www.pref.saitama.lg.jp/>

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

tel 048-824-2111(代)